



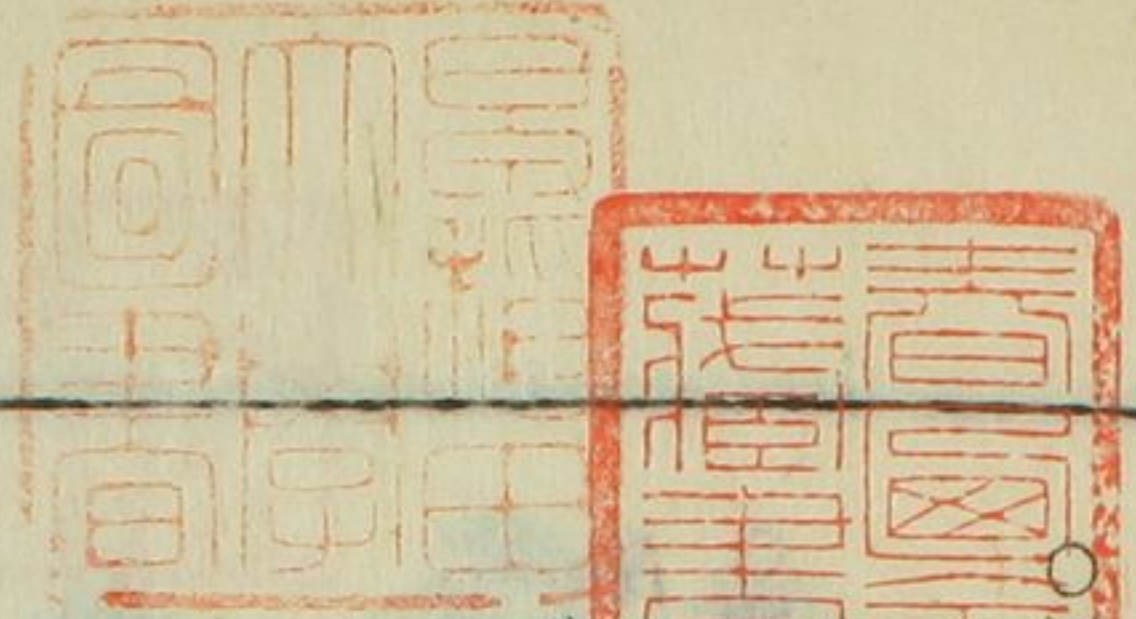
都林泉名勝圖會

一冊

E  
163  
2

逍遙文庫  
文庫 6  
1875  
2





南

玄院

總見の南にあり、長政の長子、院主、宗室、居城、長門守、

長政、等、為、檀、越、長政、の、男、号、院、主、宗、室、居、城、

長政、の、男、号、院、主、宗、室、居、城、長、門、守、

長政、の、男、号、院、主、宗、室、居、城、長、門、守、

長政、の、男、号、院、主、宗、室、居、城、長、門、守、

客殿中間

山水

等伯

禮間

山水

同

勅使間

人物

同

北間

柳燕

同

○金鳳山天瑞寺 總見の南にあり、併、大雄、禪、師、王、仲、和、尚、塔、石、

一位、春、藏、大、丈、人、一、時、建、法、名、瑞、寺、宗、桂、号、院、主、

客殿中間

松一

將世永徳

禮間

竹一

同

林、大、政、源、文、祿、元、年、七、月、廿、六、日、逝、八、十、三、歳、

蘇州府志卷之六  
大德寺  
蘇州府志卷之六  
大德寺  
蘇州府志卷之六  
大德寺



大德寺  
塔頭  
芳春院

南  
檀那間 同 彩一色  
衣鉢間 同 彩一色  
大書院 墨画 山水 同  
東向 墨画 山水 同  
北向 同 富士山 同  
○正受院 龍翔の南小師の廣徳正宗禪師法座和尚塔所  
客殿中間 墨画 列仙 待興以等  
禮間 日 山水 同 壽石等  
檀那間 日 山水 尚景等  
○大慈院 瑞峰の西小師の佛國大安禪師法座和尚塔所  
信長公の女兒安喜院村上岡防与義明蓮玄院後山口  
左馬女弘定梅林院殿等檀越  
客殿 花鳥山水 等伯等

○北  
**高桐院** 大慈度通禪師王甫和尚塔所  
 忠貞初居丹後田邊郡中移豐前小倉城二封二十八  
 万石其後創原の役軍功ありとりて忠貞の男城中  
 忠利と改く肥後州小封一領五十四万石  
 忠利又と定く本州八代城に居忠興正保元年十二月  
 三日逝八十二歳号松向寺殿之齋宗立居士  
 乃チ王甫和尚の甥あり

禮ノ間 墨画 樹本一式 等伯筆  
 檀那間 柳駒馬 同 筆  
 衣懸間 蠶室圖 園梁楷真筆寫 長谷川五代目等伯之  
 千鳥圖 等伯筆  
 大書院 山水 同 筆  
 客殿中ノ間 墨画 山水 將世探幽筆  
 禮ノ間 同 山水 善朴筆

○北  
**玉林院** 高桐の弟あり大興圓光禪師月岑和尚塔所  
 慶長年中善安院法中真嶺氏正琳造之元  
 七年田原及乃上月岑自ら衣孟と整く重建は別琳の字  
 分クく玉林と改心

○北  
**大光院** 金龍の弟あり大慈度通禪師所古漢和尚塔所  
 文福年中造立正二位大納言秀長口和州郡山  
 城及紀州泉別及於七十五石と領り  
 元和年中藤堂和泉高虎為山に移り  
 秀長ハ秀吉公の弟天正十九年二月廿九日薨り大光院  
 春岳宗榮と号り其長男中納言秀俊口古漢和尚と号  
 高虎ハ寛永七年十月五日卒 年七十五 号寒松院殿

檀那間 七賢 四愛堂 琴碁書画  
 衣懸間 墨画 鶴 洞 雲 真 筆  
 大書院 墨画 鶴 探 幽 筆  
 西ノ間 同 山水 洞 雲 筆  
 抄戸 一向半 松猿猴 二枚 竹鶴 二枚  
 襖 二枚 松麿香 不知筆者  
 客殿中ノ間 墨画 七賢四皓 永真 筆  
 禮ノ間 墨画 夏景 同 筆  
 檀那間 墨画 杖景 同 筆

衣躰間

墨画

同

等

大書院

墨画

同

等

○南 金龍院

天瑞の西より御性心宗禪師傳授の塔所  
慶長年中金龍五帝八長邊道立信長公の  
冥福を薦ぐ初、長松和尚の傳授に任持せしむ故  
有る當山に擲出し之後改く傳授和尚と居たり  
○長邊の去部は法平と号し飛州の山城に居たり

客殿中間

山水

同

等

禮間

四愛堂

同

等

檀那間

大松

同

等

衣躰間

山水

同

等

金龍院額

朝鮮人

等

枚戸

四枚二枚彩色

等

等

○南 昌林院

大雄居の西より旧霜持軒法竜大深禪師元南  
和尚の塔所文福年中蒲生飛騨守氏郷同と男  
飛騨守秀作造立し父の功徳揚ぐ氏郷八文福  
元年二月七日卒年七十奥州金津城主百万石

客殿中間

七賢

安

信

禮間

山水

同

等

檀那間

山水

同

等

○北 龍光院

玉林の南より以梁興宗禪師江月和尚塔所  
造立し長政の筑前福周城五十二万石元和八年  
四月卒年五十二歳号興雲院  
考高八天正十三年秀吉公に奉り豊州中津城六万石  
慶長九年三月廿日卒年五十一歳号龍光院如水圓清

聯芳堂

院内より中位達齋左圓鑑困所右  
興宗禪師と安け又後陽成院寺六皇子  
好仁親王号高松殿一系江月林入室才子為院檀  
越より又吉川房波守慶正礼江月同法其父孫人院侍從  
廣家の遺命を以て立墓於此院慶家居臨州若園城六万石  
寛永二年九月廿一日卒年六十四歳号全光院殿中岩如兼

客殿中間

松松 仙人

等

筆

禮間

松松 仙人

等

等

檀那間

真山水

等

等

衣躰間

金山寺圖

同

等

大書院 單山ノ圖 同 等  
 杉戸 一間半貳枚 同 等

北 ○芳嘉院 直拓心源禪師 王室和尚塔所 慶長年中  
 加州金澤城主中納言若田肥前守利長の母

善若主人造立け主人加州大納言利家に室土方掃部助  
 女元和三平七月十六日逝之 葬芳嘉院 善若宗富一又  
 後陽成院 廿七皇子一條園白昭長公 葬芳嘉院 檀越

香湖園 榎井氏田屋 又有飽雲亭 月橋

客殿中間 唐彩色 祖師圖 探幽 等

禮ノ間 墨画 獅子牡丹 同 等

檀那間 唐彩色 四愛堂圖 同 等

衣懸間 墨画 山水 同 等

大書院 唐彩色 花鳥 同 等

小書院 墨画 山水 同 等

右二十四塔頭由致ハ龍寶記之被禁次

○寮舎

龍泉庵 松源院寮舎 陽孝和尚塔所  
 明應年中 中多變 豐後守高忠子孫 爲檀越

客殿中間 西湖圖 興意筆 等

禮ノ間 人物 同 等

衣懸間 耕佃圖 同 等

檀那間 梅花 同 等

大書院 柳本斗画 同 等

杖戸 一間竹鶴 彩色一間 野稚 已上 同 等

北 ○清泉寺 三玄院寮舎 開基實傳和尚中興傳外和尚同伏見  
 持其 清泉寺 今其 清泉寺 今其 清泉寺

客殿中間 唐彩色 山水 等 伯 等

禮ノ間 四愛堂 同 等

檀那間 琴瑟書画 同 等

衣舞間

山水

同

筆

大書院

山水

同

筆

○瑞源院

芳主院の寮舎大光のあふあり江月と閑祖と凡水也日向寺源勝成所造後福山の城主

客殿中、間

墨繪人物

等

筆

禮ノ間

山水

同

筆

檀那間

耕作

同

筆

○寸松菴

龍光院子居江月と閑祖と凡依久る將監實勝領一万余

客殿中、間

曲水

探

筆

禮ノ間

名中山水

同

筆

檀那間

花鳥

同

筆

衣舞間

西湖八景

同

筆

書院

袋棚 菴求 菴求 菴求 菴求 菴求 菴求 菴求 菴求 菴求

同

筆

同

額 風水洞

林道春筆

筆

額

亭杏菴

同

筆

廊額

空歩廊

同

筆

○梅岩菴

瑞岩院寮舎天祐和尚塔所

客殿中、間

松竹梅

將

筆

禮ノ間

花鳥

別

筆

檀那間

八景

同

筆

大書院

人物

同

筆

衣舞間

人物

同

筆

○高林菴

芳主の寮舎芳主の裡ふあり王舟和尚塔所慶長中立其後寛永中行桐石見寺貞昌再建貞昌八和州小泉邑領一万余

客殿中、間

山水

探

筆

檀那間

人物

同

筆

禮ノ間

山水

安

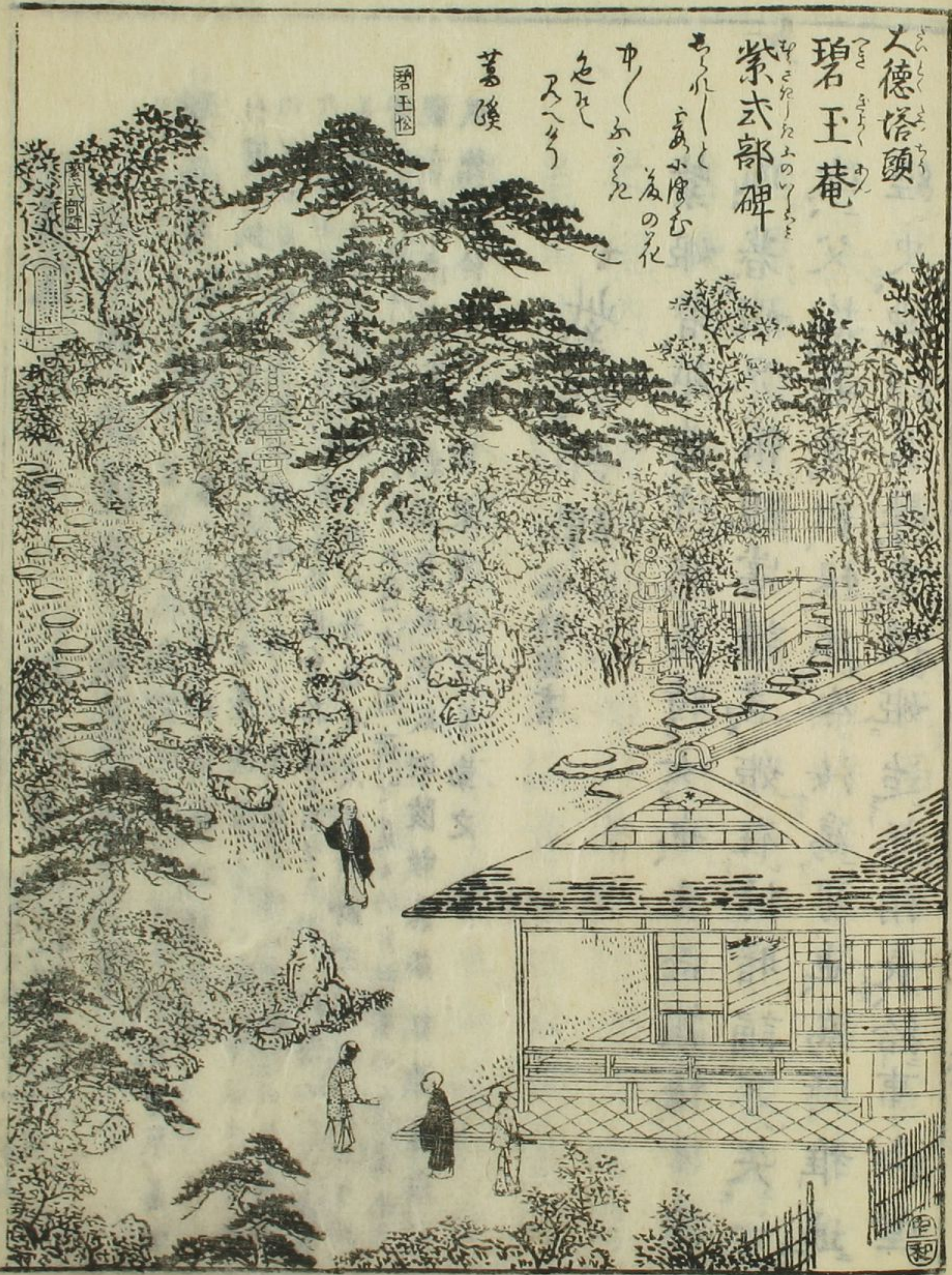
筆

衣舞間

山水

益

筆



大徳塔頭

碧玉菴

紫式部碑

中

又へ

又へ

又へ

又へ

碧玉松

大書院

山水

常信

玄妙額

後西院帝宸書

見性庵

瑞峯寮舎之玄内内五の万江和尚塔所  
慶長中立

客殿中

七賢

禮間

林和誌

等益

檀那間

真山水

同

衣鉢間

山水

同

常樂庵

玉林の子居古溪和尚所造後廢  
細川執中寺源細利度大岩和尚と  
將世永納

客殿

松竹梅一丈

同

孤蓬菴

龍光院子菴江月和尚為南祖小堀遠江守政一  
造立政一正保四年二月六日卒六十九歳

客殿

山水

周信

禮間

松竹梅

同

檀那間

同

同



書院

山水

探幽筆

書院は直入軒との寛永  
年中小幡春太と建修  
小幡運判の父なり

佛間額 孤蓬菴

松花堂程々翁筆

碧玉菴

天正年中藍溪和尚御創立花菴  
菴後柳川領十二万石松島藤村備前  
備前小細川玄旨幽齋所持の文臺硯管あり  
當寛政十年午  
の秋九月紫式部の碑碣とあり建修古蹟へ去  
所許田隴の神あり都名所圖會拾遺に出ず  
碑ハ故蹟あり  
又建修之銘ハ烟維龍由殺ハ井後氏久米女財主  
の恨花五十川  
菅正齊田中督榮あり九月月中旬碑と建修の日  
供養の法越あり  
觀音懺法奏樂一越調音取賀殿迎陵頻急胡飲酒羅陵王  
武德樂伶官七人岡東儀林三家勤之

紫式部碑 扁額隸書

紫姬者越前守藤為時女也生而穎悟才德  
夙著姬只惟規嘗讀書姬在傍暗誦不失一  
字父撫其背曰恨不令汝為男也為時雅通  
經史迺以其學悉授姬迨年稍長給事御堂

公家尋侍上東門院既而適左金吾宣孝生  
二女亡幾宣孝歿矣姬持操甚堅獨與其女  
居覃思讀書通五經三史涉佛老百家詞藻  
富贍逸思如湧永延之朝有十才女紫姬為  
之冠內命著編新語姬乃著源語六十帖進  
呈焉外託艷詞內存諷諭意匠結構摘藻婉  
麗前無古人實女史之大手筆也時之哲匠  
不能贊一辭也姬有容色貴介公子以歌通  
殷勤姬拒之亦以和歌其詞婉曲而貞烈不  
可奪也其它事實詳干源語諸註及日記等  
卒葬城北雲林院冢今在院東南數百步但  
墳塤存已今茲寬政乙卯有尼師傷其冢日  
就荒廢募緣四方同志建之碑令維龍銘焉

銘曰

倚與斯人

窈窕淑貞

聞德斯美

若瑤若瓊

雲髮霧鬢

歛采榛荆

彤管之煒

日星燿明

爰建爰勒

永存令名

寬政七年歲次梅蒙軍闕小春日

鶴山畑維龍子蝮甫識

業武部八つ... 鶴山畑維龍子蝮甫識

業武部八つ... 鶴山畑維龍子蝮甫識

ふいさ清きつををそくすのりく系と并ふふ系  
くくおあゐるのそくもわらふよく純せいのふけい  
たむきぬるふいさもせふあうもほとせのあ  
井後氏  
之女子

○當山之寮舎子菴名画筆頗多一筆みよのくもり

龍翔寺

旧西京安井村あり應仁の丈後廢今大徳寺僧法堂正受のわに  
あり洞山有浦和尚入宋虚堂和尚法嗣後延慶元年十二月廿九日  
寂れ七十四歳益通之應因解宋朝の後興徳元嘉建長等正勝  
又西京純和豊後の圓福城南のぬ賜筆師と奉り同祖と云

客殿

墨繪  
小栗宗丹筆

南向

花鳥

同

引接寺

千本通北極小あり辨く千本庵庵堂といふ寺本も櫻あり  
花の対之念伴と傳に源信信都末子定覺と云

本法寺

小川頭あり日蓮宗林泉の光悦の作あり世宗の巴の庭也  
十六本寺の其一あり賞を其形深山泉石共浪の紋と模を什寶といふ幅對の名画あり

中央觀音月壺の尊たい許由張芳汝の尊右巢父同尊一鶏頭州  
の繪の舞擧の尊貝畫の繪の繪昌の尊あまの當寺の尊ふく光明

皇后清子の法華經又小地道風の法華經あり本阿弥光悦の法華あり  
羅漢の像の種々あり明兆舟古法眼等の尊之宗門より日蓮日親等  
の尊も數軒あり又名望あり其銘と松風といふ中華より傳來といふ其外  
教品あり畷之摩利支天の画像あり尊老詳るは足利尊氏の副統あり

其文云

太現明王者合戦本尊也若石公授子房公尊也匡房卿授源  
義家之い尊又名摩利支天當家傳之項羽高祖合戦  
時項羽軍強高祖度々討落此時張良の尊高祖  
傳奉款強雖此尊帥行前持款自退散何况  
本尊威光依吾儕無不仰眉矣

正慶二年十一月



護 帥檢役口傳申也  
足利大和守殿



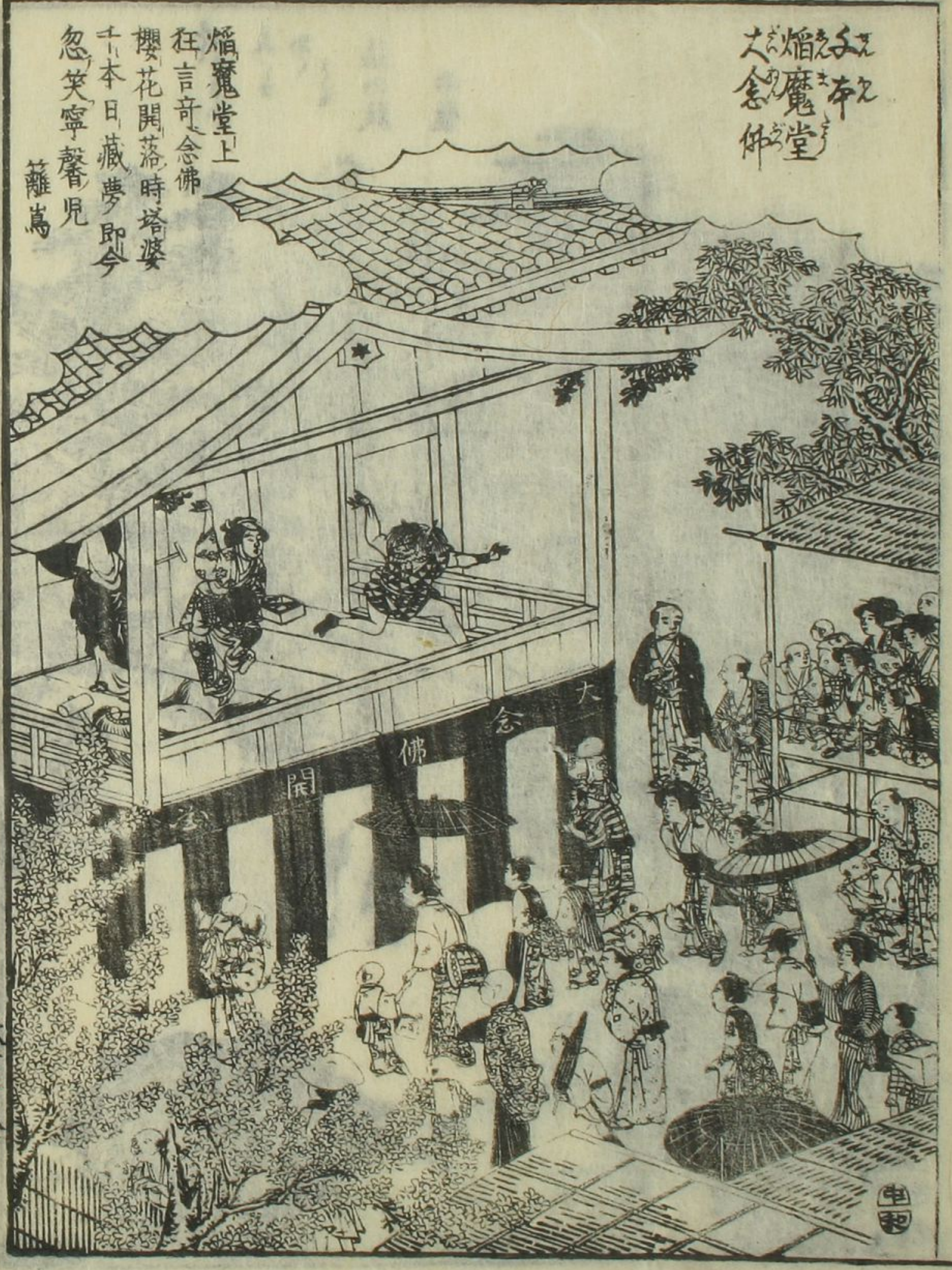
龍  
 の  
 紋  
 雨  
 龍



本  
 法  
 寺  
 巴  
 の  
 庭  
 平  
 石  
 法  
 光  
 院  
 他

三  
 十  
 七

又本堂  
又本堂  
又本堂



焰魔堂上  
狂言奇念佛  
櫻花開落時塔婆  
千本日藏夢即今  
忽笑寧馨兒  
藤島

六角堂

六角堂池之坊の瓶花の専慶坊より發せ専好法師中興之家其妙之得て  
 出水幽谷公純の瓶中小亭み四喜村之系本公自在ありて蘇相と立たは新譜  
 十九箇條の秘傳ありて海内都鄙遠近出入人多く毎茶七夕の目と聖の意向  
 して内子聚て瓶花の精妙ありて昔は日帝も潤進あり 将家立た成  
 敵る事今み絶つ事なり 二水記云池坊専好法師は立花のふあはる理考の達人なり  
 侯下流の御會の御十瓶と指すと云云 池坊専好の著し 後橋宗茂清宗二系  
 年中泰内の宿青蓮院尊無親王御直筆の御文出世御法輪院に下  
 これいふまに池坊二十六代専好法師とて終

其文云云云

先刻も池坊系内殊に瓶花専好の事なり 兼威  
 甚し月一也し波是し以来月台口己あ又の系内  
 ことし望まらずの中しに社作系にむお是上流極なり  
 後記  
 い月々三日

法蓮院



池坊華道秘傳十九箇條目錄

- 七一色 櫻 水仙 紅葉 杜若 蓮
- 三箇胴 牡丹 竹
- 三箇流枝 中流支 龍流支
- 三箇之前置 松 芭蕉 薔薇
- 二直 合真
- 生花七種 水仙 椿 芭蕉 薔薇 牡丹 菊 菖蒲
- 小卷 信受 已上
- 大卷 傳授

建仁寺

五山の其箇之大本寺 建仁二年源頼家公采西禪師之延く地を  
 王城の東に施し大禪苑を管真言止觀の二院と據官寺と爲 已上元亨  
 開祖采西禪師 明庵 備中吉備津の人其先ハ賀陽にありて薩州  
 刺史貞政の曾孫之薙髮し廿六の時に仁安二年夏四月高船に乘り  
 瀛海を泛んて定國明州界より歸法と虚庵敞和尚不語く建仁  
 一年四月五日瑞朝し當に公廟を建保二年七月八日寂し 年七十九

佛殿

向山堂

方丈

鎮守

無盡燈

赤松圓心塔

當山十景

群玉村

清水山

扁額

悅可

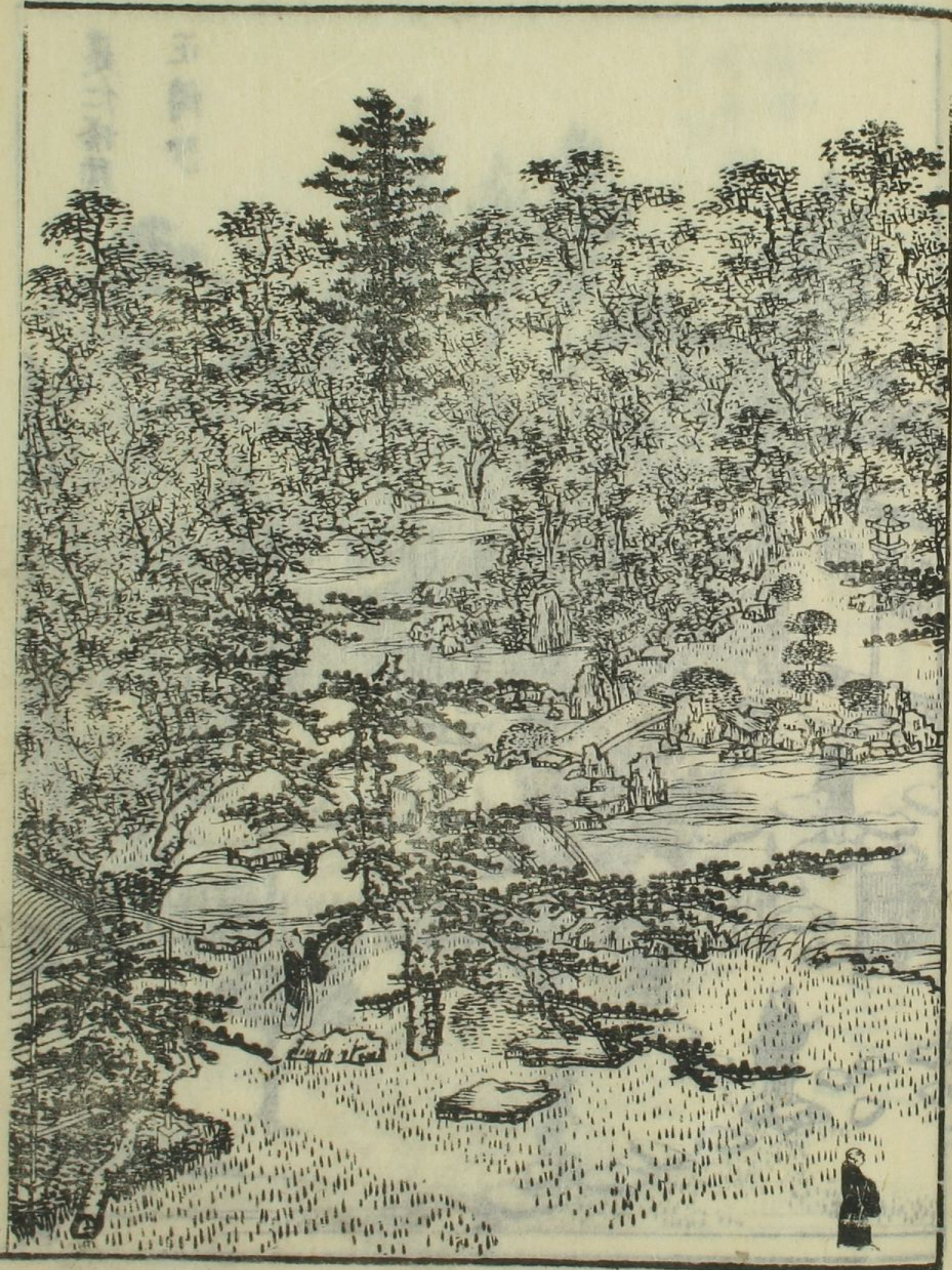
龍藏

經見祠

佛殿 初遊 彌勒 七池堂 土師門帝宸殿  
 向山堂 向山采西禪師像 脇土天童と安け  
 方丈 正觀多安け 東橋門院御書附  
 鎮守 鎮守樂大明神祠 向山の兩親を祀祭す  
 無盡燈 禪居唐土あり 摩利支天尊と安け  
 赤松圓心塔 大龍塔  
 當山十景 法拙和尚の 慈視閣 方丈 望闕樓 山門 大悟堂 僧堂  
 群玉村 衆寮 入定塔 向山塔 樂神廟 鎮守 無盡燈 禪居卷  
 清水山 第五橋 鴨川水  
 扁額 三世如来殿 併殿 法涼軒 方丈 拈華堂 法堂  
 悅可 維那寮 首座 香板 夢升 後板 等慈 音記  
 龍藏 東藏 虎林 西藏 春會 和客 希真 侍番  
 經見祠 門ありあり 例永九月十六日系礼魏々々々







建仁寺  
正傳院  
後田有樂  
他



林  
下  
川



織田  
有樂齋  
茶亭



蓮仁塔頭  
正傳院



建仁寺畫墨曬掛虫干之圖

方丈

北觀者

觀音像 唐安藏

觀音像 唐安藏

觀音像 唐安藏

仰山像 九名類

仰山像 古劍類

觀音像

猿猴 松 牧溪筆

北 阿山明庵像 自贊

猿猴 松 牧溪筆

叭鳥 同筆

觀音像 月壺筆

叭鳥 同筆

藥山 接李嗣 為建仁方丈口 牧溪筆

觀音像 月壺筆 寶德寺五月八日謹畫

黃龍 接日洞廣 三軸共作之真相口 牧溪筆

後於元院 觀音像

觀音像

什寶數品あり 繫由より之畧之

○正傳院 十一世義翁和尚 龜山院文永年中建其後慶長の願 續田 河内守長益再興之 和七年十二月十二日卒 正傳院有樂如庵 号尺

書院

中 蓮筆 唐 田攝

古法眼筆

東 耕作

同 筆

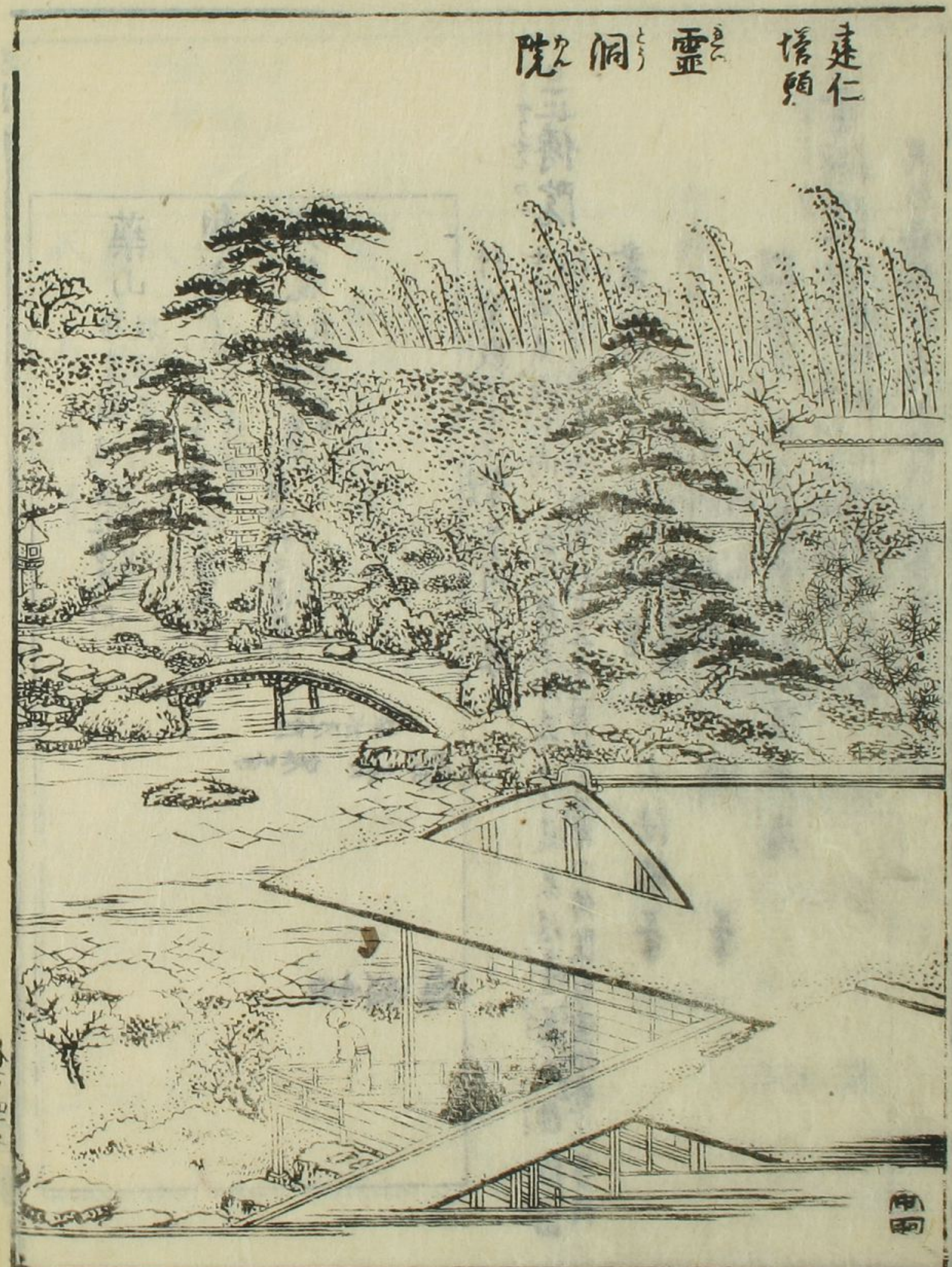
教家屋 織田有樂の好 額如庵

○靈洞院 北六世高山和尚 基 凌醍醐帝元應年中建立

其外塔頭林泉名画あり畧之



建仁  
塔頭  
靈洞院



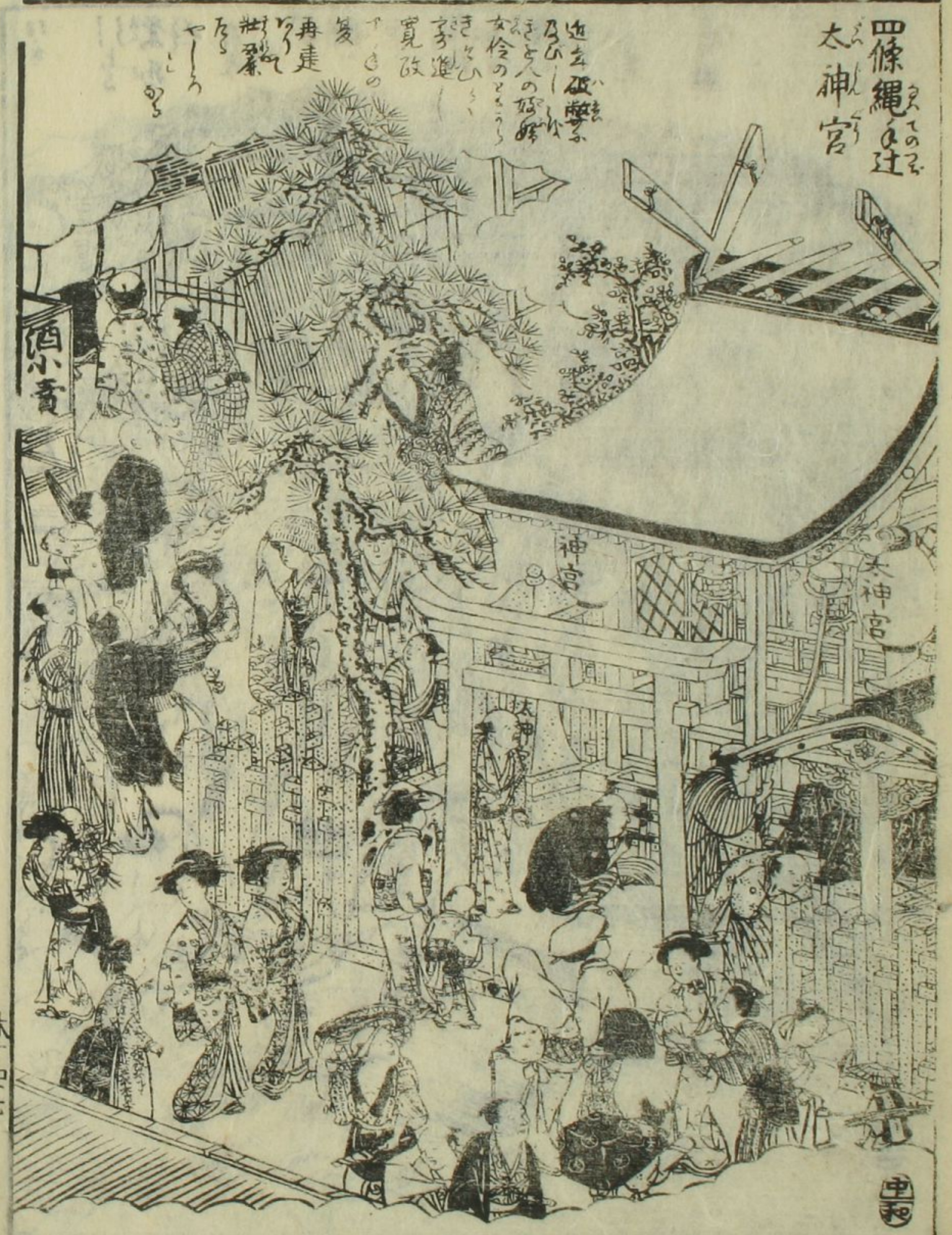
狂  
 引上り  
 榮西の  
 頭  
 陀羅尼  
 の  
 子  
 の  
 更  
 九  
 鯉



榮西禪師  
 鴨川の深淵に沈み  
 引上るを  
 陀羅尼  
 の  
 子  
 の  
 更



四條繩<sup>よじ</sup>の辻<sup>つじ</sup>  
太神宮<sup>たいじんぐう</sup>



林ノ甲七

四條祇園橋と昔々之條五條み等々官橋之久考元年二月廿九日橋造替

あつて供養の奉百練鈔少々うり又安貞三年七月廿日暴風暴るの雨洪水溢

はして四條五條の橋流と流る負む五年六月十日祇園執行行意法所祇園

橋と濟をそ奉新たの田楽と合老お辰集り茶河系小橋を打ちたれなり人

希代の形集りて見おれ異本寶徳三年十月十日系河系橋成統と改初政曆

橋板も今も川小はくく都にけりれに方乃旅人正徹

往昔官橋もあつて洪水を扱われ後世彼橋をゆきとつて及河系度

くく観物付合茶廊多し特みか月半祇園の夕涼も美艶と夜風姿のゆき

万燈水の流小輝るの系表の柱観みか平天下の謳歌あるべし

月照<sup>四條橋</sup>紅樓<sup>隠翠楊</sup>徘徊<sup>倚檻</sup>夜如霜

蛾眉<sup>長袖青絲</sup>騎筒<sup>筒筒</sup>成影也忙

丈山の口の過り夕暮、美

涼一さや形集の中もあ月の

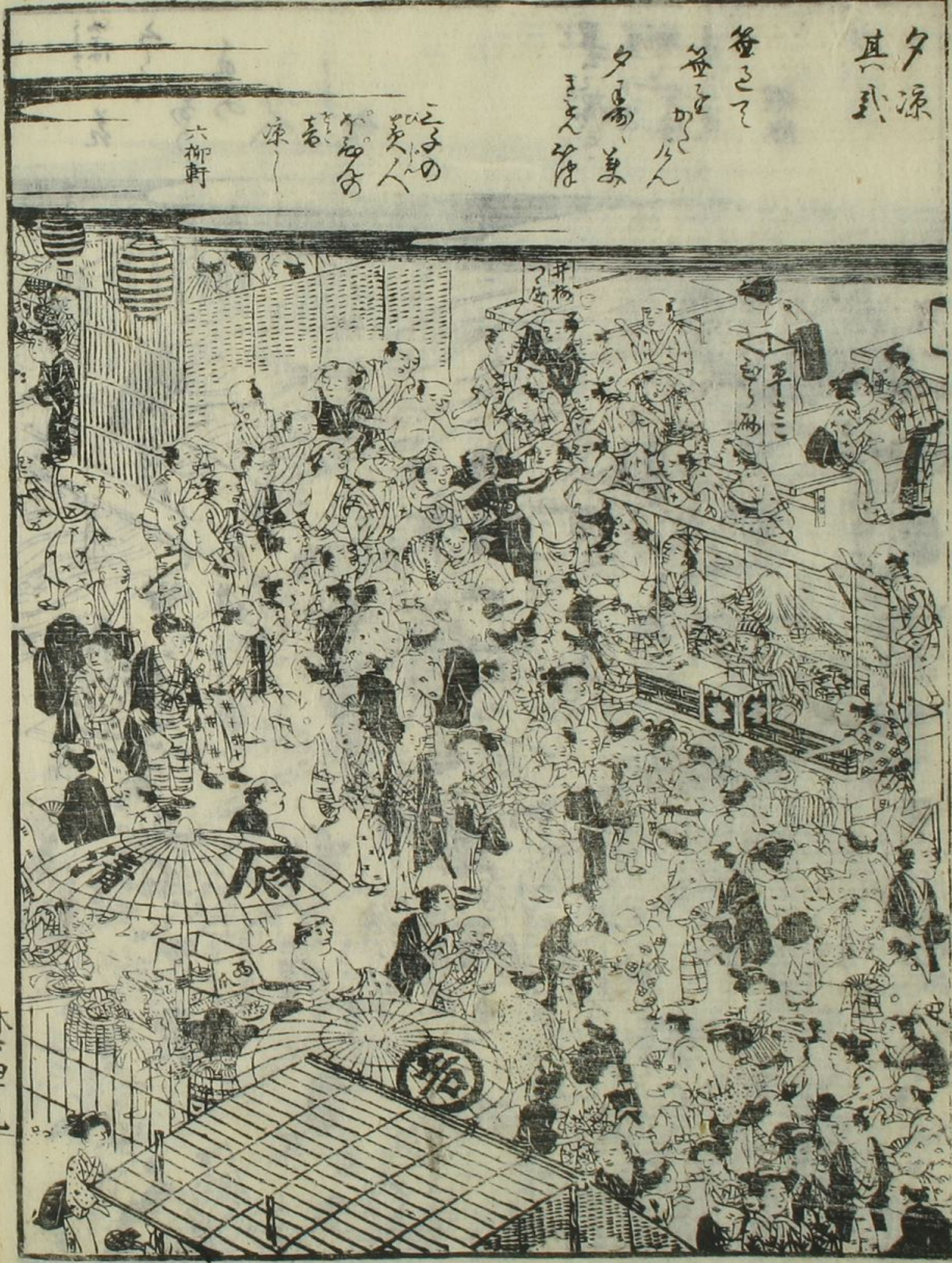
夕涼夜の都れりえり那

栲亭  
無村  
足雅  
文瑞





文鳴  

夕源  
 其武

各々

夕陽

三々

三々

之子の  
 美人

かたや

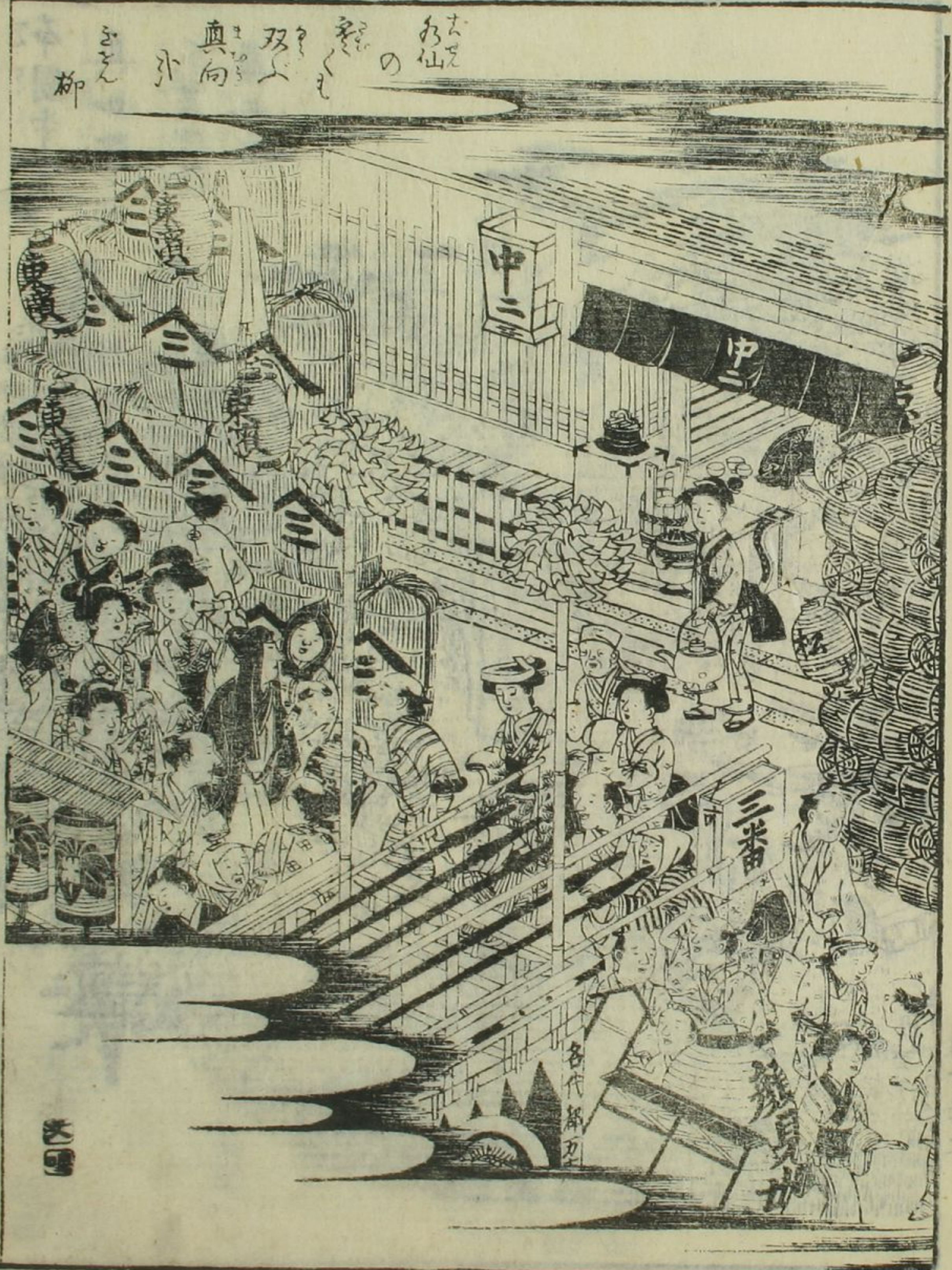
若

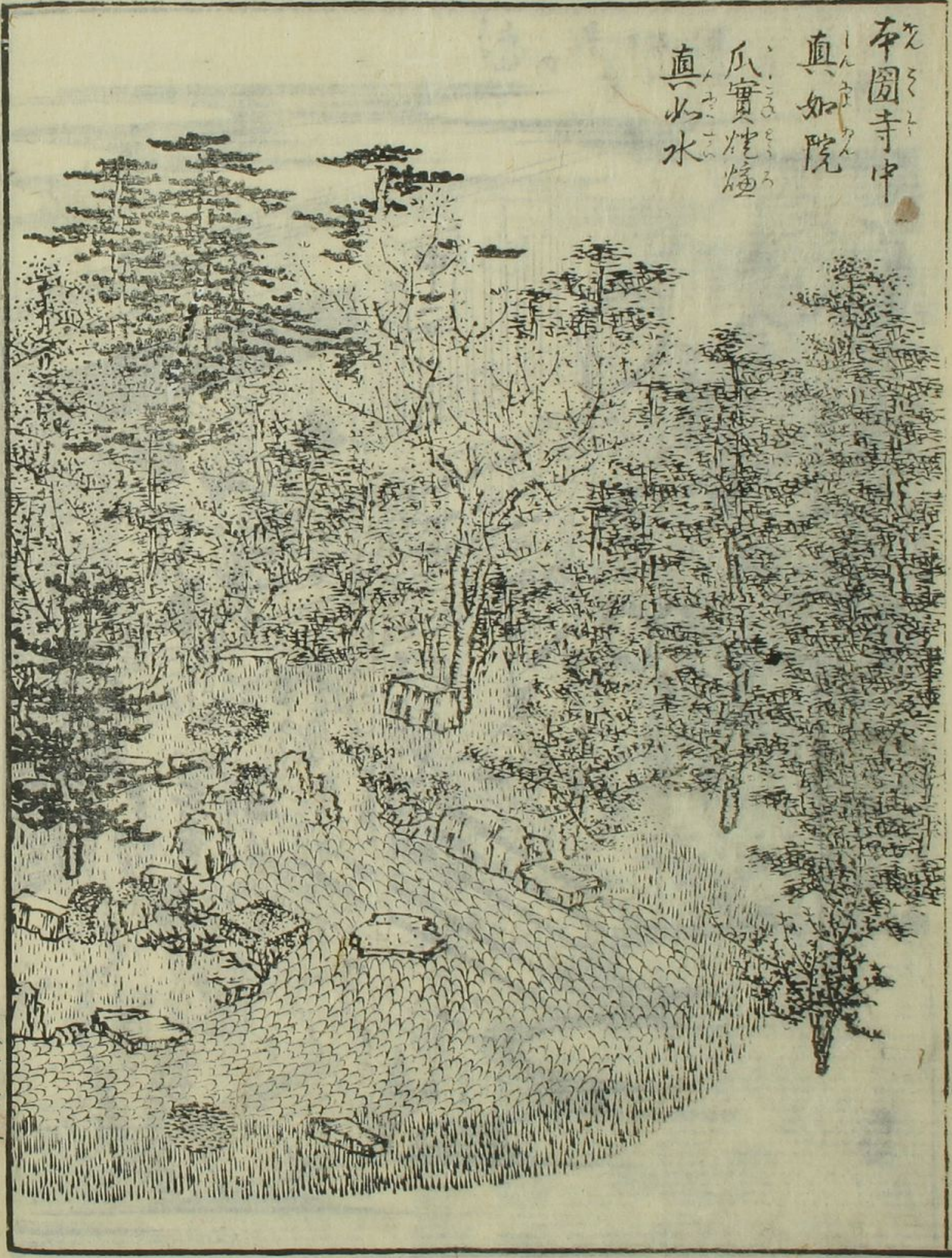
涼

六柳軒

六柳軒



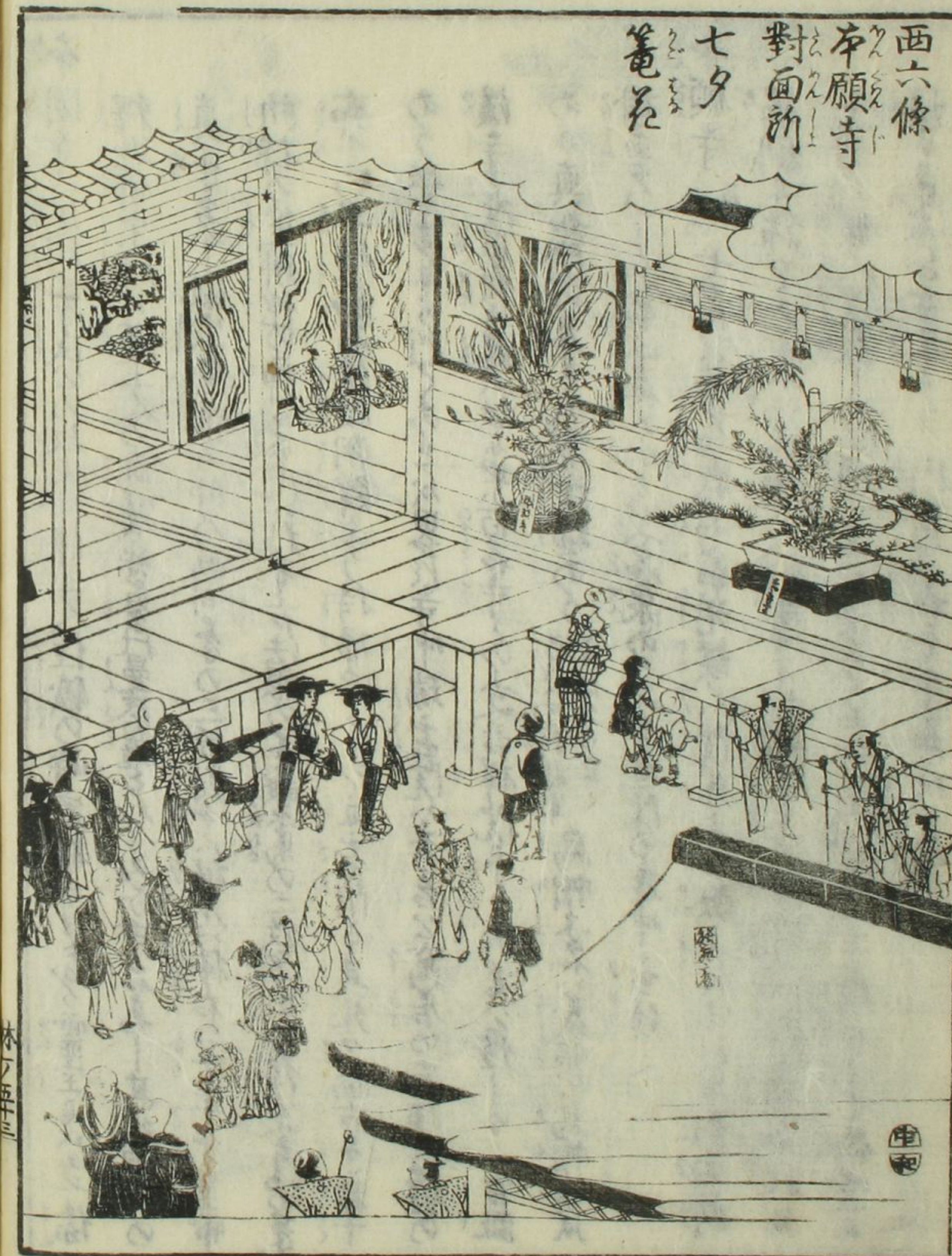
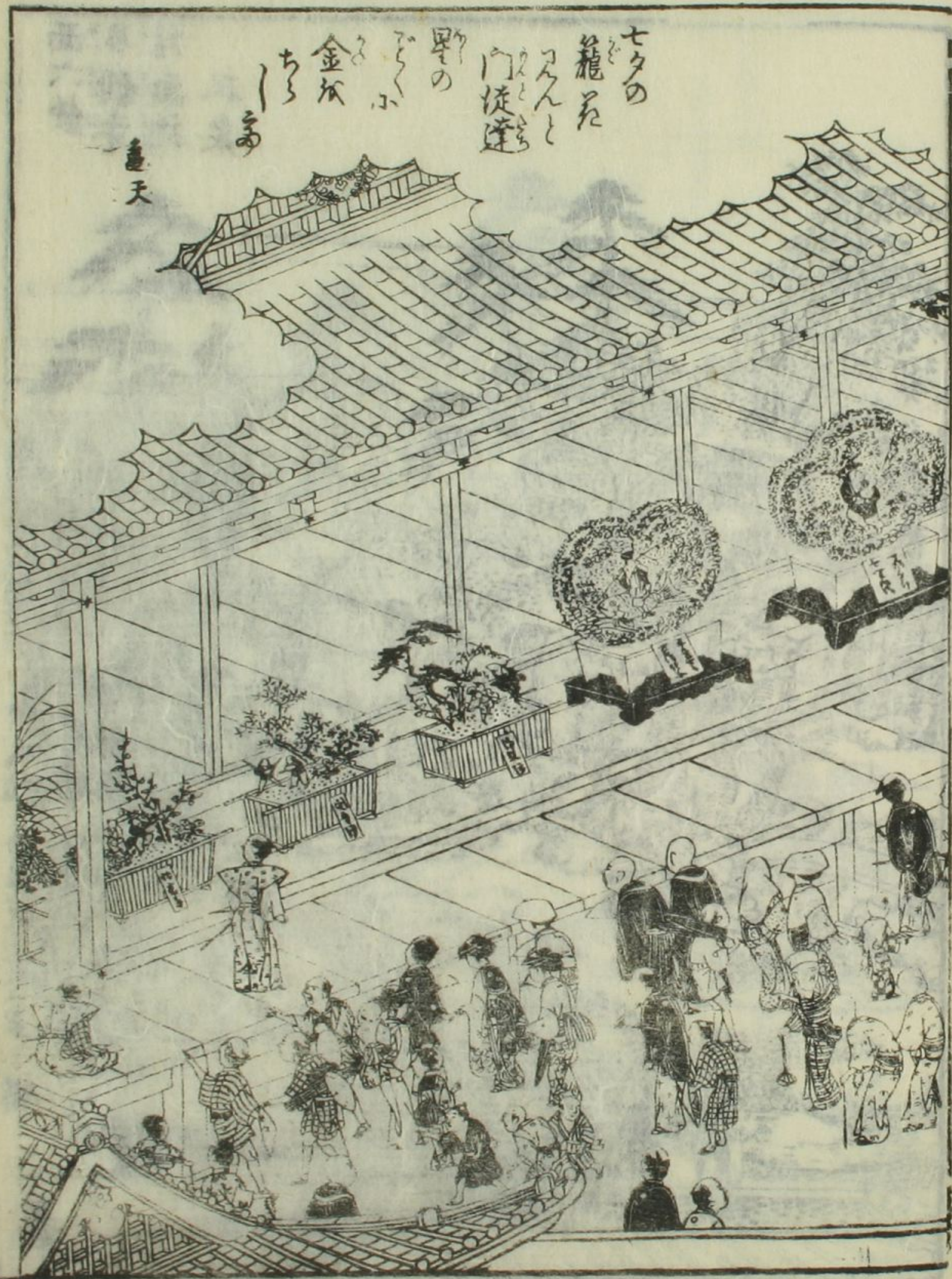


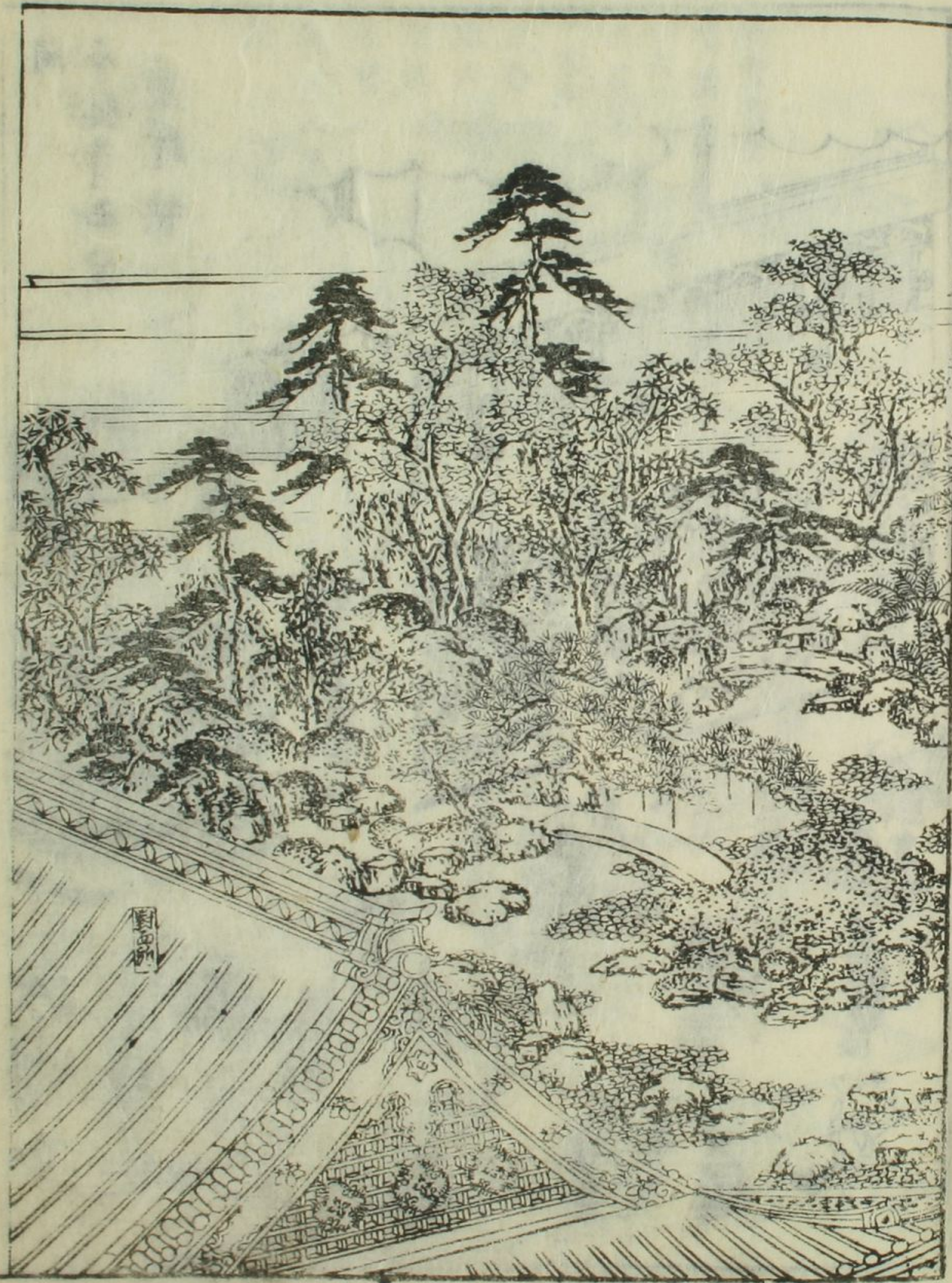


本園寺中  
 真如院  
 瓜實燈燭  
 真水

木  
 一  
 五  
 二





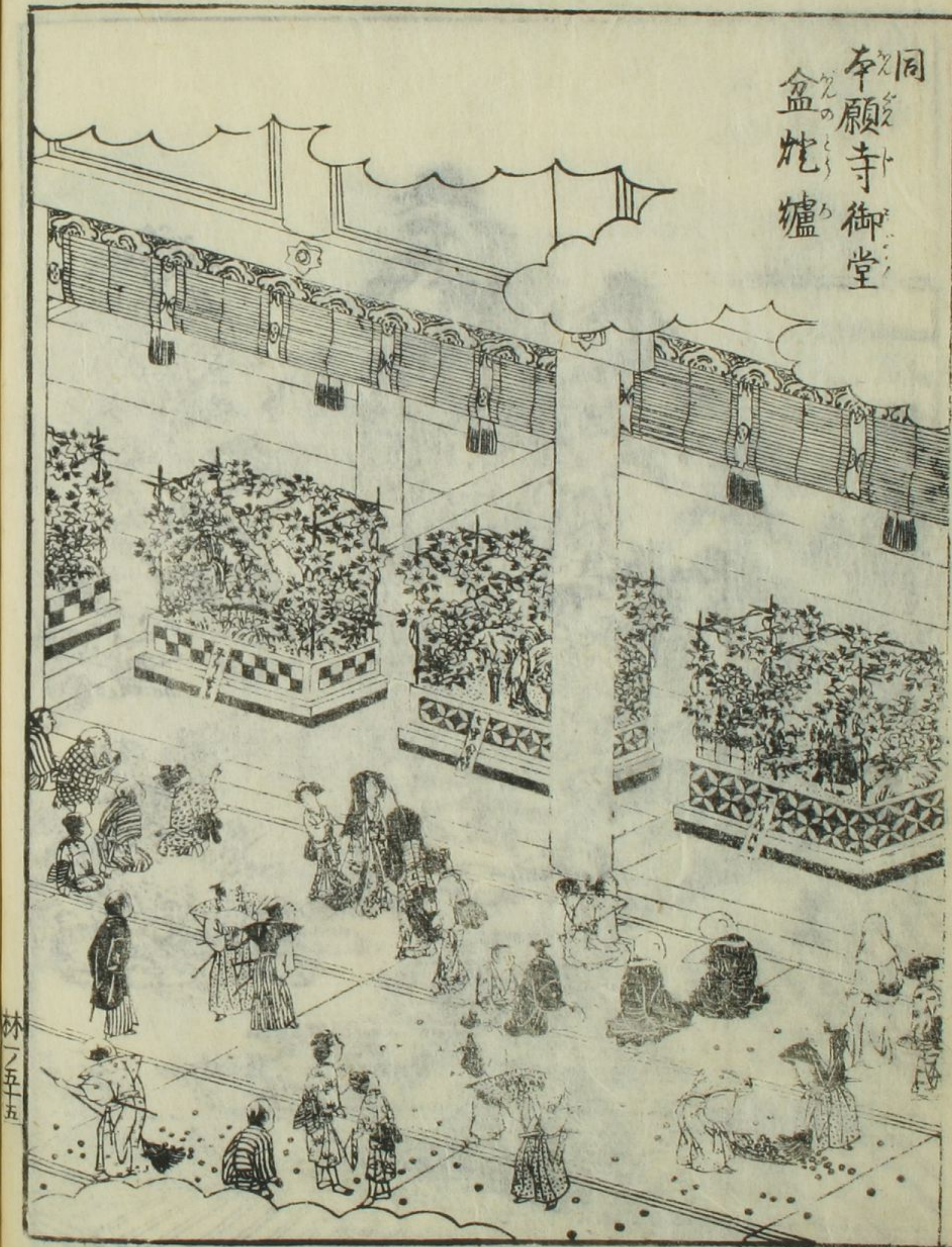




蘇為

御堂盆會  
燈燭聚  
仰智光明  
不遠思  
一念則  
玉極  
樂土  
多投  
金寶  
波袿  
滋

申



同  
本願寺御堂  
盆會  
爐

林之五五

東本願寺 東六條 近年文明の末回祿神の災火罹りより直江州尾の

御堂を引移して修本堂と諸國より教子の門徒競集りて新初より

之本石段百餘家附一杉骨碑身して出柱意は多の年と累修本堂

阿弥陀堂菊の門南北に玄園洋樓鼓樓之寢殿小寢殿日書院

黒書院路の間奥の殿舎の教を庫藏基所茶所乃至と嚴重壯麗

とく成就今年生廿日本堂開山尊影の遷度卯月二日且

阿弥陀堂の遷併ありまは成祥とて開東園西及び清々なり波濤

を渡り縮麻の如く糸活の門徒境内の家々も充滿せり實小開山親書

聖人末代の機法を鑑く道俗男女と安く普所呈々々々宗風弘道

結ひしお有難し又やうとくれ

館舎の中より寢殿小寢殿の名目あり其地は按てふむい北に東主

之位彌親卿の殿舎之具林泉舟後海橋立は移りて此と廢く

海にわたると樹凡系は内と月と賞せり寺の殿舎は建られし時

此殿あり事を知りてかく名づけられしおある人彌親卿と

歌人あり教古今集に撰れお所入りし人々

南院ハ海橋立也輔親卿家之為見月寢殿南庇不差之云

懷圓カ池水ハアノ河ニヤカヨフラントヨム此所ニ詠也月明夜ニ以向

ハニ衣又テ人モ子スラント思フニ寢殿南面ニ輔親一人月ヲ見居テ干時

相半ニ奈興詠此哥曉更ニ帰ルト云

東鳴臚館趾 帝王編年記云南水二町起七条坊門一迄南七条一東西

二町起東壬生迄西朱雀按てふ東寺建立の後

義和六年八月辛酉以東鳴臚院地二町宛典藥

寮爲御藥園

又槐秘抄云

七条朱雀東為鳴臚館と新い異國の人まの付なるを

少ふあんひひける村上の沖日記に蜜瓜のあ杯と鳴臚館乃

形ふあまひく鳴臚みく人させられ米ころりとしいれま一之云

いまへ人然と下ろるるくひり

帝王編年記云

延喜八年渤海客來朝於鳴臚館

和漢朗詠

前途程遠馳思於鴈山之暮雲

後會期遙霑纓於鳴臚之曉淚

後江相公

六條内裏

拾芥抄云北六條坊門南六條通西六條院東の舎あり白河院承保  
二年新宮を造り六條内裏あり又二條院とくわ皇女郁芳門院  
の徒を遷照六條御堂と草て禪師とよむ万壽寺といふ其後  
塔頭三聖寺の内遷候

園太曆云

白河院承保三年八月廿日六條新宮棟上也額岐守顯季造營之

百練抄云

承保二年十二月廿一日遷幸新造六條皇居

中右記云

寛治八年正月二日行幸上皇御所六條殿郁芳門院同御此所

百練抄云

保安四年十一月十日六條院焼亡本郁芳門院御在所今為仙洞

家集

六條院より遷入奉り三題と後せり

中右記云

極楽のまことと云ふにちりてりてそと

六條院

天仁元年八月七日郁芳門院御國忌也未刻許泰六條御堂

釣殿院

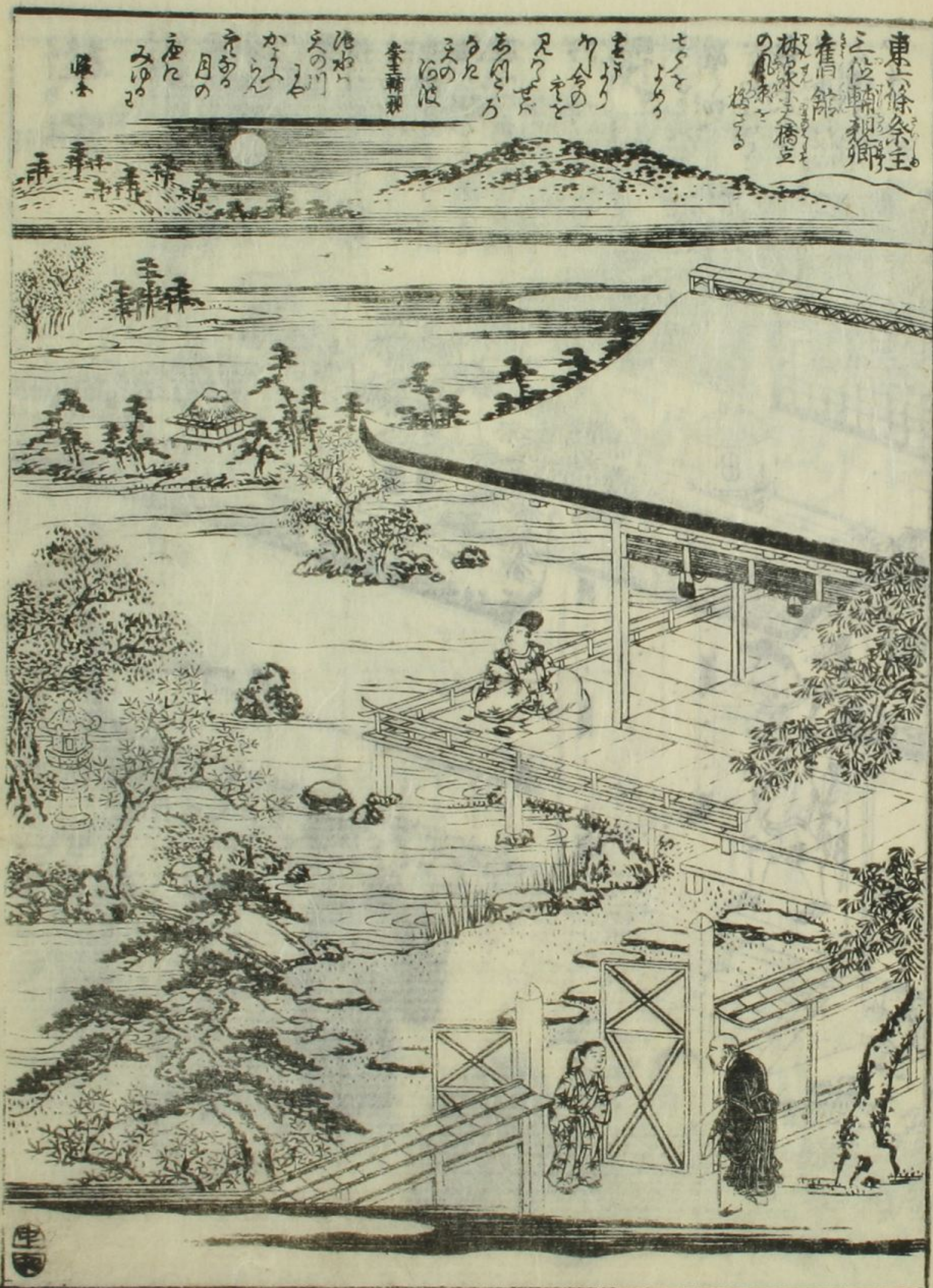
拾芥抄云六條北東洞院東号六條院  
光孝天皇御所云付属淳子内親王

三代實録曰

天長八年生天皇於東京六條第  
按拾芥抄云光孝天皇降誕所  
小松殿云云

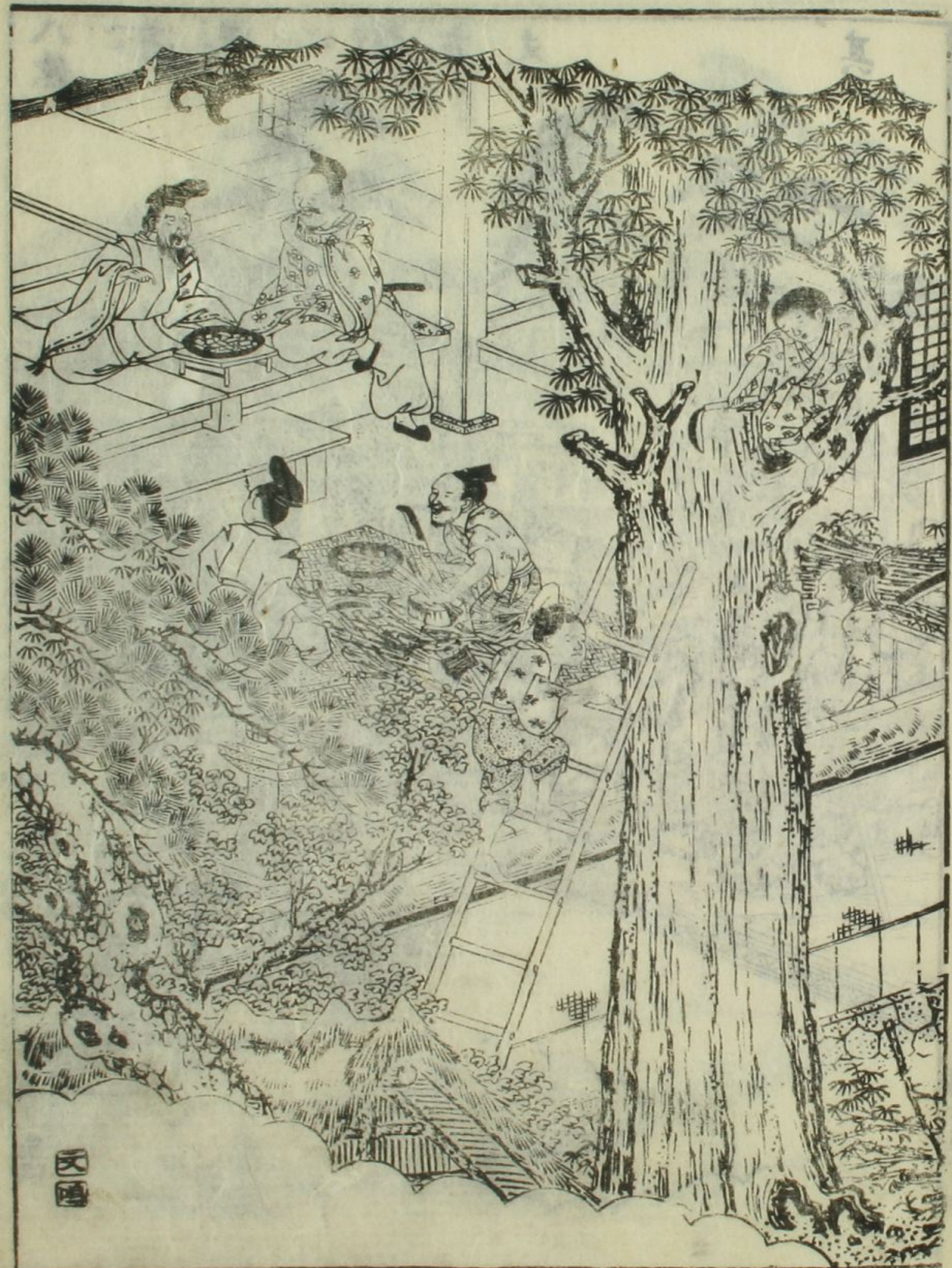
簾中抄云

釣殿院今六條院也  
藤屋云云保氏其の所り及り  
六條院あり今の号あり



東六條余主  
三位輔親卿  
舊館  
椒原  
の  
御  
所  
也  
七  
月  
廿  
日  
行  
幸  
上  
皇  
御  
所  
六  
條  
殿  
郁  
芳  
門  
院  
同  
御  
此  
所  
也  
天  
長  
八  
年  
生  
天  
皇  
於  
東  
京  
六  
條  
第  
也  
按  
拾  
芥  
抄  
云  
光  
孝  
天  
皇  
降  
誕  
所  
也  
小  
松  
殿  
云  
云  
藤  
屋  
云  
云  
保  
氏  
其  
の  
所  
り  
及  
り  
六  
條  
院  
あり  
今  
の  
号  
あり

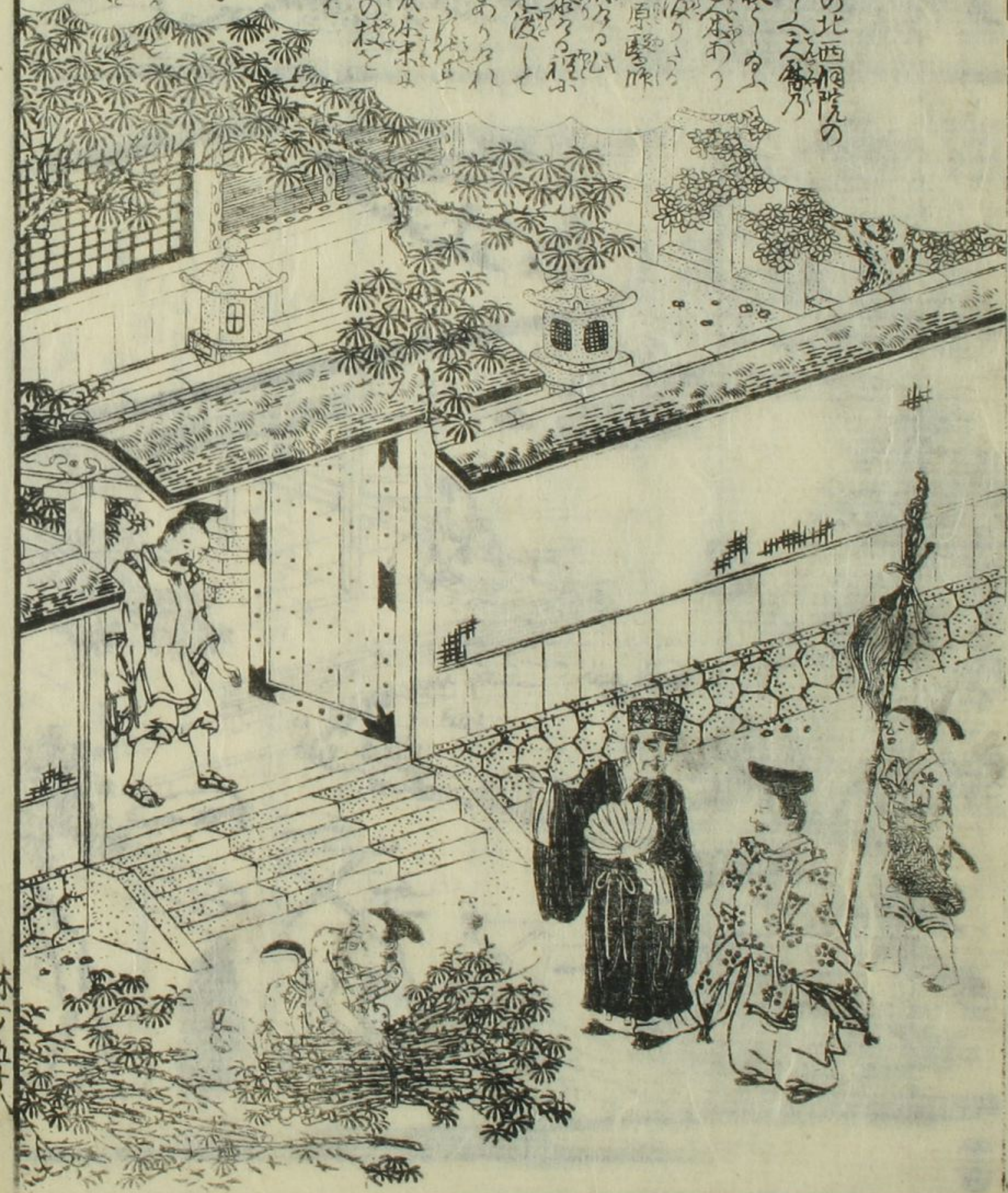




文圖

桂宮

桂宮二條の北西相院の  
西よりいふと  
帝御殿  
山本桂の本あり  
雲風  
傍の長考の原野  
長考宮  
桂の樹  
桂心は圓みあり  
よも人  
切下  
唐の桂心  
人憎く  
か



林ノ五十八





遍照心院 八條御前 六孫王源經基公と祀侍 徳五年薨逝し移し居り新小御前と

其後鎌倉右大臣實朝公の後室二位禪尼 法名本學坊 内府信清公の女 大極殿と成

本幡廻心上人と号し向山と号し戒律三論真言華嚴の淨刹とあり

鎌倉二位禪尼 平 伊豫國新居庄とあり右府將軍の菩提場と

かゝる正堂より阿弥陀 并 四天王像と安住 運慶 方丈より中央

寶冠釋迦佛 左 源實朝公薨之元年正月廿七日 他界 本願 夫人

八條御前 文永十一年九月九日 延 方丈額 後窓 遍照心院額 光悦書 誕生水 方丈の東

多財天 當山年業之しく之母荒廢の体今昔お治りええりてく小

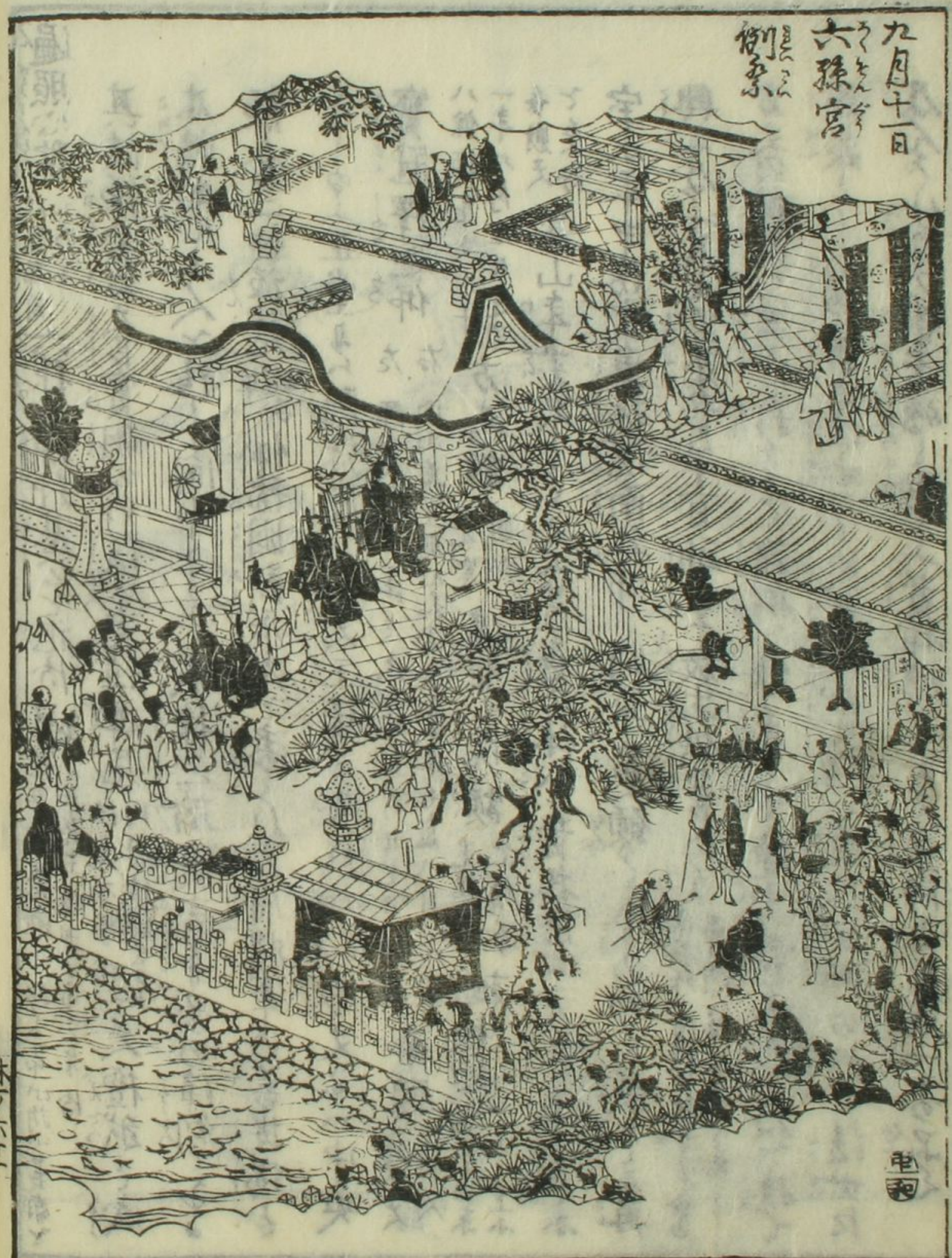
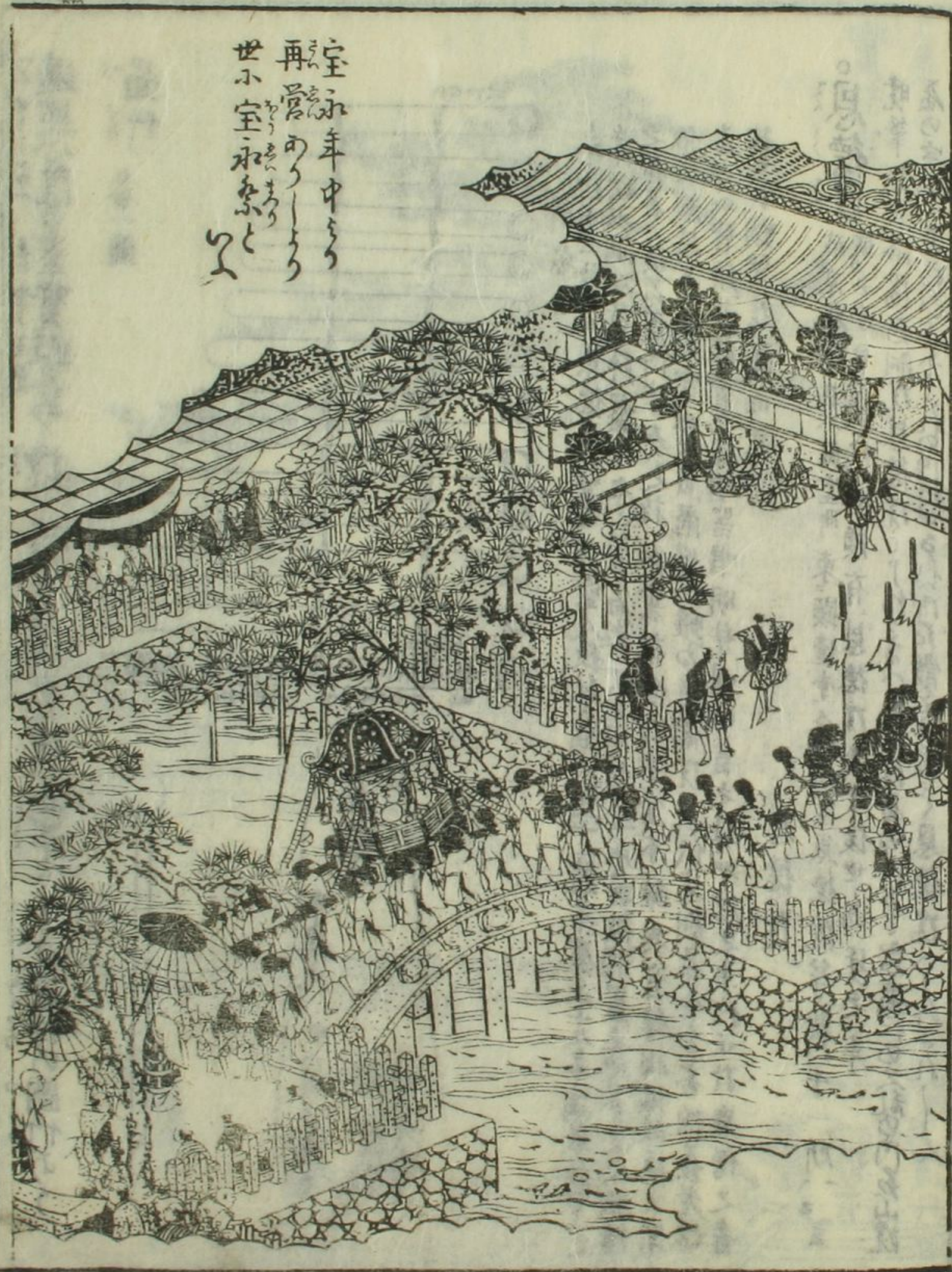
室永年中坊中東林院南谷師 將軍家願く今の如く教を再

興ふ乃其上例兼九月十日神事放生供養あり 南谷師は通代の徳書にて書

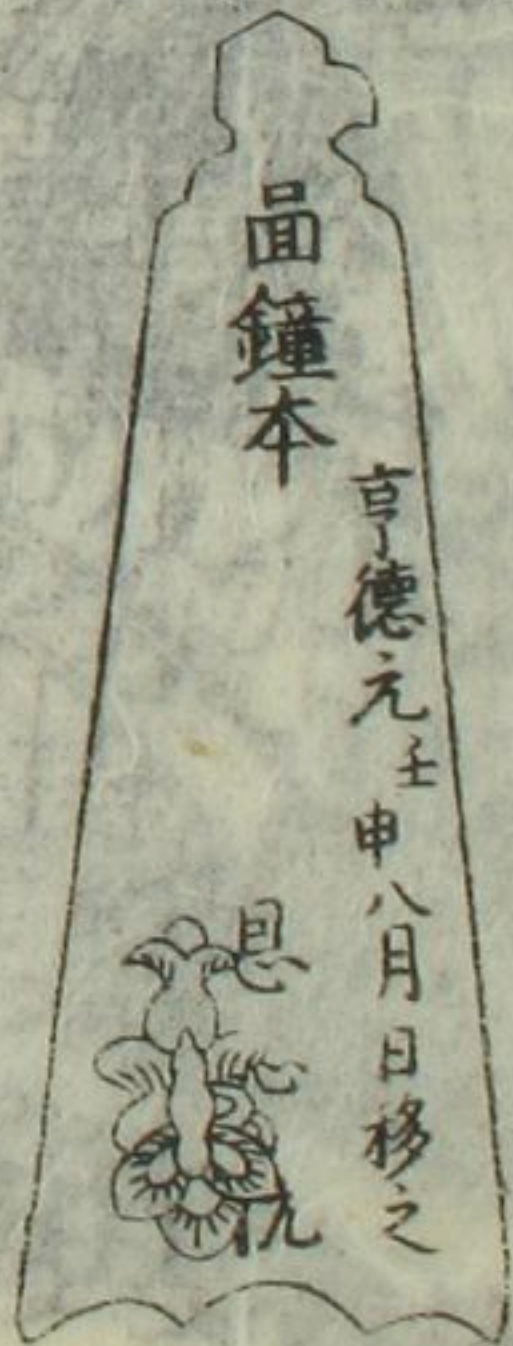
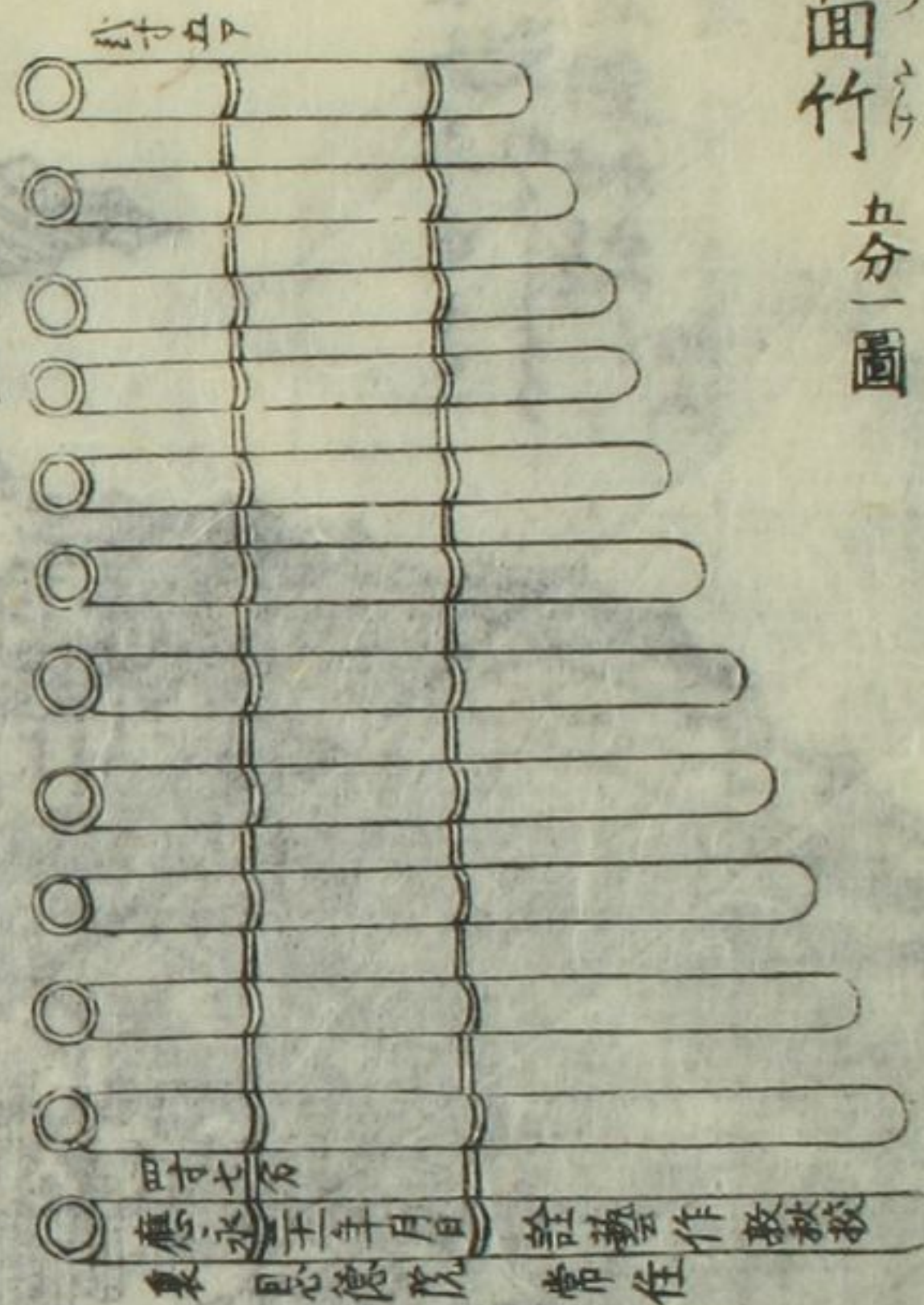
方丈の林泉の廬山と移し諸樹を伐り木と連山の體とあり枝を挽て

飛泉と白砂と布て流水と風系真妙之初は後窓圍師の他之後世に

及んて伏見の朝秀徳と助て者補修とてん系師を造の一赤ふと



遍照心院の蓋寶粧の持 將軍家御書附の武器多し又老律の圖竹の  
 面竹 五分一圖



副條之  
 本年十二律者恩德院詮委 樂人教秋之兩人歷十二箇年應永十九年調畢故号之  
 年次及調功黄鐘盤律之管者年次之同他詮委被調置之也兼又采調鐘  
 之撰者 後花園御宇奏之於 禁裏換金於木金木 雖異音律相協故達上聞  
 依有獻感是亦為聖寶自爾以來雖為恩德院累代交割希今全奏附長光坊  
 希也此皆雖非法會之器唱器唱明梵唄助音之具也以之未代正於衆傍之音  
 藝我願望茲滿而已

恩德院

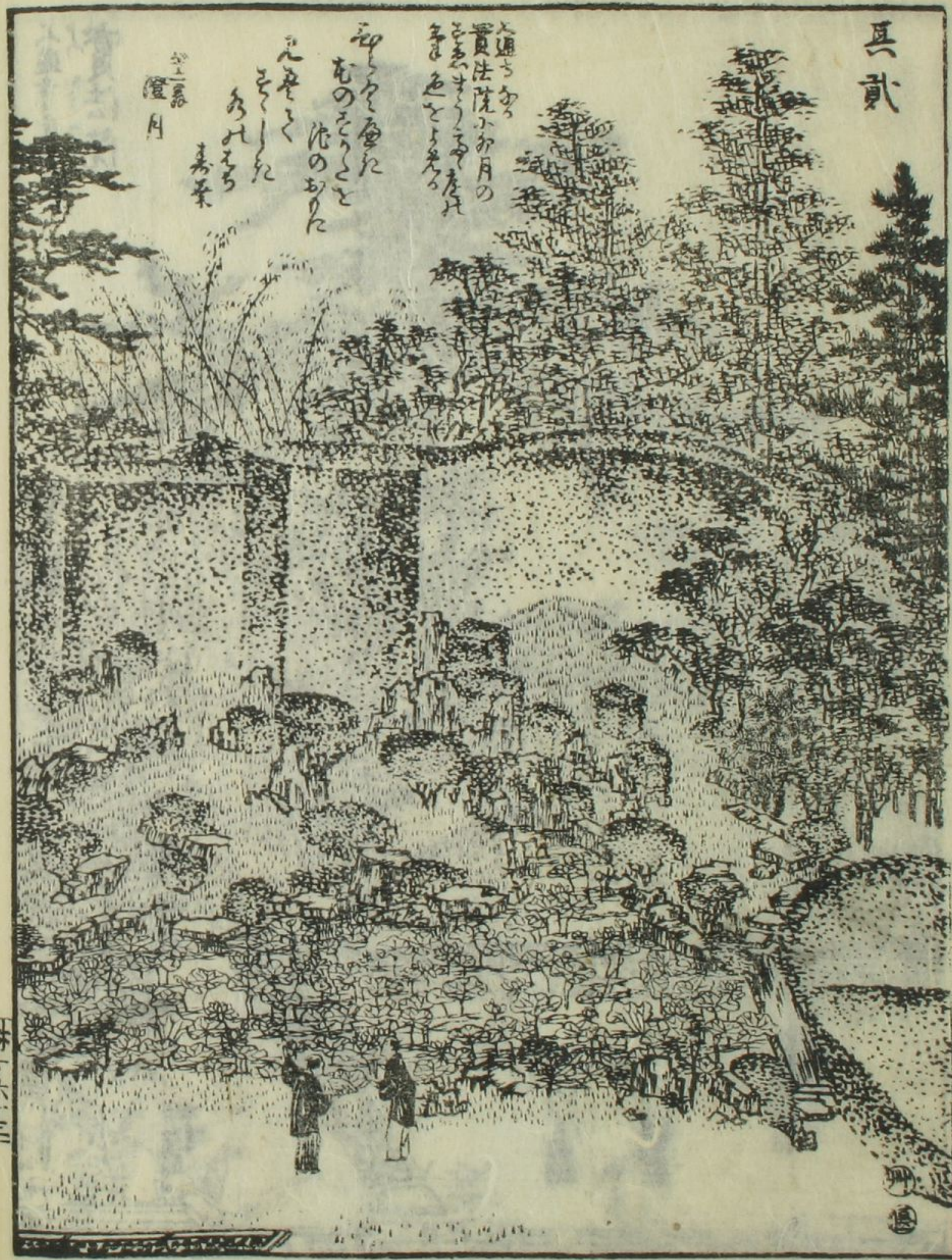
恩德院 或云今編照心院塔願有恩德院至千後世而遷之乎  
 或云今編照心院塔願有恩德院至千後世而遷之乎  
 曉筆記云洛陽為洞院恩德院と云はた山院及の所と名應仁の之社の内山院  
 庭の室かく遷移ししを其の内なるに所死骸と云ひく恩德院と云はれり云

大通寺中  
 實法院





朝  
庭  
松  
竹  
梅



具  
貳

六通ちか  
買法院下か月の  
そまきうやたは  
きよ色とよえり  
初を登れ  
ものごとと  
依のあら  
えそく  
そくした  
あれそち  
嘉茶  
空  
澄月

林  
六  
三



東大  
通寺  
院  
報  
谷  
所  
齋  
樓



○實法院遍昭心院落頰林泉廣くく 刺水の風景なほ遠く 雲の日は眺む  
あり 特は蓮池ありくみふ月の花盛なり香芬々々くく紅白を  
あつぢひ其外瓜紅本紅蓮ふとの名茶多くあれはらんせく  
朝日の出さ待て群衆を駭人亦よみ詩仙くく水芙蓉瓜當子車  
和漢異くく歌妃子が歩芳氣十里みゆえ花の君子も賞後  
蓮と愛を半予小同くた者何人とも我叔はよるた々

米蓮曲

米蓮 溪上 女 祇 向 花 多 處 花 多 人 不 見

花 底 聞 花 語 入 花 入 見 出 花 始 見 花 乃 知 薄 情 子 只 是 宿 他 家

蓮の名や水をとろふか 莖二寸

蓮ふの舟 朝日涼く 神の國

○東林院同塔頰門外の東林泉廣く東南をうけて月日若く小舟観たるは舟の車

さしけ院子有る南谷所の住居ありく庭中の西は有齋あり

一行の居や踏ふ小月を報と

碓亭

蕪村

蕪村

蕪村



南谷所の  
旧構きよく

庭にわふ  
子威こゑ  
のふかや  
あふさ

お藤おふじ

南谷所  
の  
風景

南谷所



東林院  
其貳

南谷所  
書齋  
幻華庵

南谷所の庭を  
松尾山と  
いふは  
松尾山と  
いふは  
松尾山と  
いふは  
松尾山と  
いふは

南谷所

竹



新瀧泉の  
中、小瀧泉あり  
其の流、清く  
涼し、夏に  
宜し、其の  
味、甘く、  
飲之、心  
を清くす  
べし、泉  
の多し



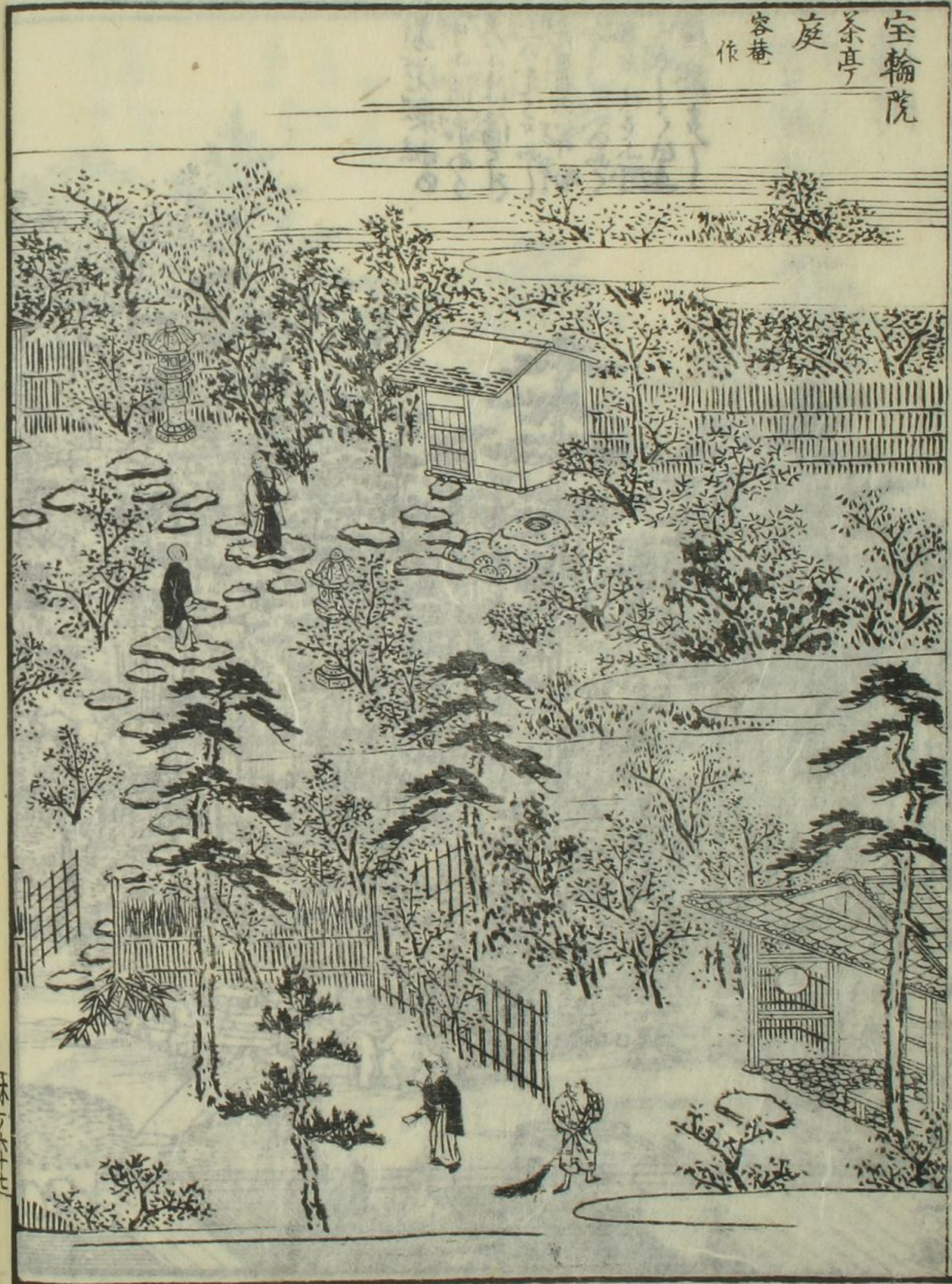
東寺  
寶輪院





印

宝輪院  
茶亭  
庭  
容菴  
作



印



四  
四

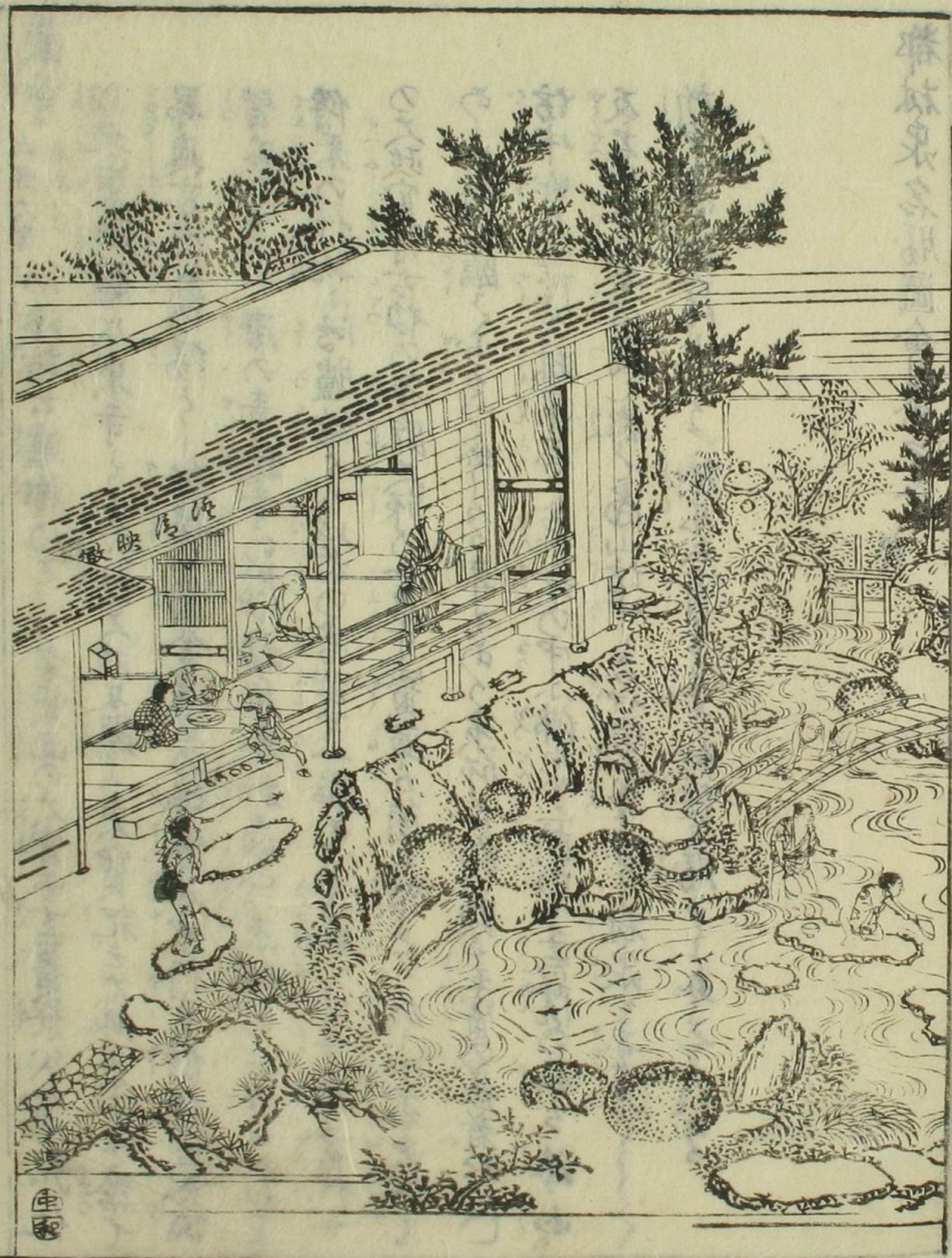


東寺  
御影供

所載供の目  
未詳世々  
修承公足  
口々々々  
能る所  
物  
又えぬ  
花  
うさ  
山吹  
五橋

功精  
平好  
熊鷹丸  
調合新  
本京都

林ノ六十八



東寺山吹

岡本氏林泉

朝秀徳之命と  
 いふその作りと  
 額ハ鳥石甚辰の  
 手也

東寺九條之宮河海抄云遷都のころ東西の大宮小宮番寮を置弘仁  
 以來東鴻臚を東寺と弘法大師賜東寶記云大師東寺を給て  
 尋直言密教の場と結構の堂舎造立の俣像年中行定僧衆の威儀  
 皆まじりく唐の青龍寺の風を倣はせ梓苗山京師の古寺をれを  
 傳来の什物小鴻臚館を以ての書字年號の奉物一五年あり書代々  
 の大政官符古抄の筆跡大師の書寺寶庫五箇あり故小例兼出押え  
 めらけ時々臨みあつて出づる年あり京師古刹の顔も重寶の長者たは  
 坊中寶輪院の林泉寺と泉水の中小沸泉之所あり青院の画と海心  
 友吉の墨丸老の圖と都と出山坊中も名画名筆多し林泉も亦多くしく  
 湧く小沸泉の清水あり樹木瓜育とる半地境も勝りてをたれり

都林泉名勝圖會卷之三 終

林三終

早稲田大学図書館

011688994774